

## 平成 18 年 8 月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

震度 5 弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度 1 以上が観測された地震の回数は 94 回、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 68 回でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、東海地域及びその周辺における、プレート境界のゆっくり滑りに起因すると思われる長期的な地殻変動は、すでに停止していると考えられます。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

### [火山活動]

噴火が観測されたのは、三宅島、桜島及び諏訪之瀬島でした。

三宅島では、23 日 04 時 28 分頃ごく小規模な噴火が発生し、山麓で微量の降灰を確認しました。噴火の発生は 2006 年 2 月 17 日のごく小規模な噴火以来です。二酸化硫黄を含む多量の火山ガスの放出は依然として続いています。

桜島では、南岳山頂火口から小規模な噴火が時々発生していますが、昭和火口からの噴火はありませんでした。噴火活動は比較的静穏な状況になっていることから、18 日にレベルを 3 (活発な火山活動) から 2 (比較的静穏な噴火活動) に引き下げました。

諏訪之瀬島では、13 日、14 日および 28 日に爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火も時々発生しました。

浅間山では、噴煙活動がやや活発な状態です。火山活動はやや活発な状況が続いています。

なお、雌阿寒岳および阿蘇山では、火山活動はそれぞれ静穏な状態になっています。

注 1 : 国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 18 年 7 月～平成 18 年 8 月の地殻変動について」を参照ください。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2006/goudou0911.htm>

注 2 : 気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3 : 地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編) 8 月号(9 月末頃に気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4 : 平成 18 年 9 月の地震活動及び火山活動については、平成 18 年 10 月 10 日に発表の予定です。

2006年8月の主な地震活動<sup>注1)</sup>

番号	月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考/コメント
1	8月7日	3時16分	父島近海	24	6.2	2	
2	8月13日	3時39分	奄美大島近海	56	5.3	3	
3	8月17日	12時45分	宮城県沖	75	4.3	3	太平洋プレート内で発生した地震
4	8月18日	0時20分	サハリン近海	48	5.9	3	地殻内で発生した地震
5	8月31日	17時18分	東京湾	76	4.8	4	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震

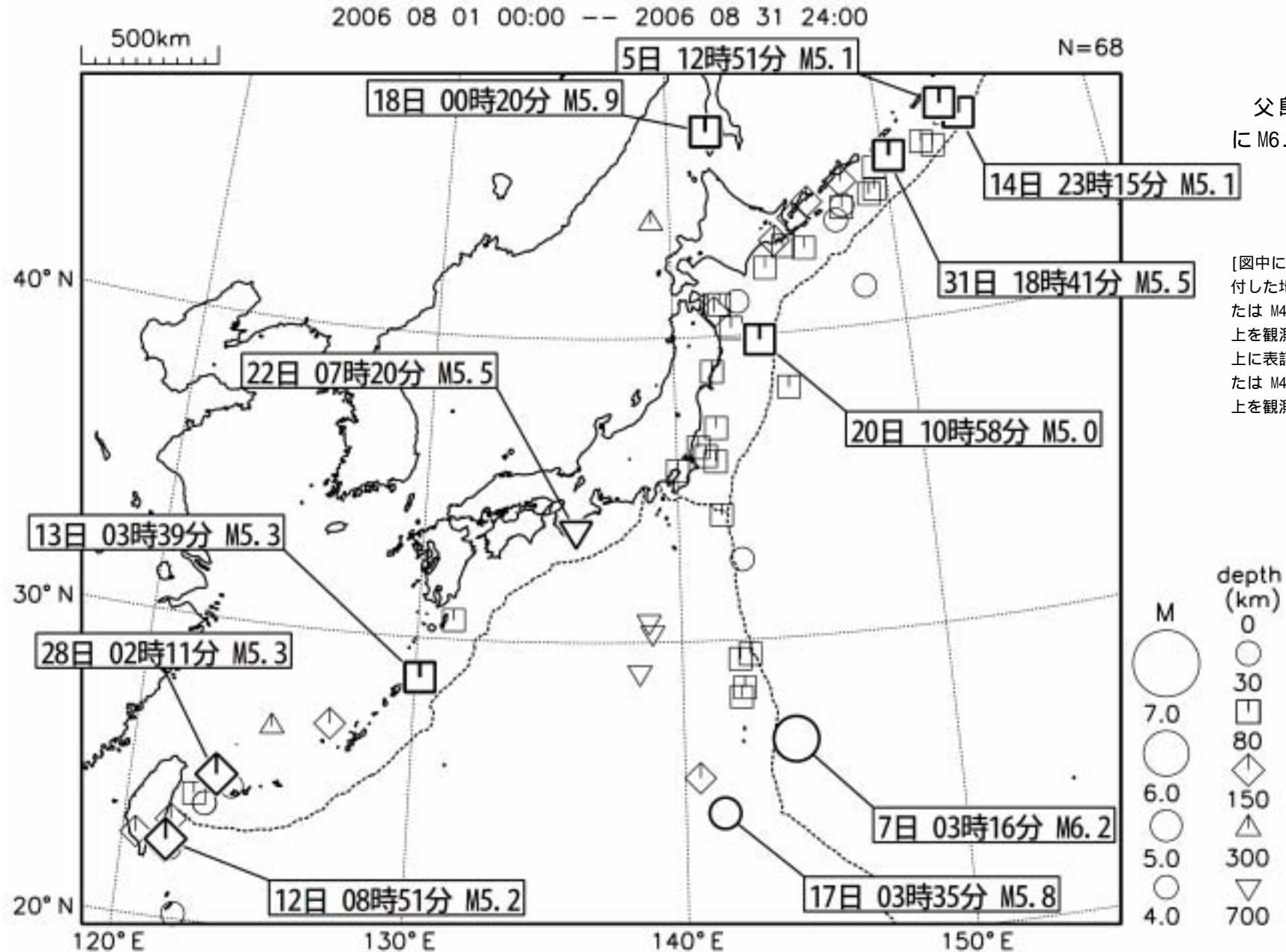
注1)「主な地震活動」とは 陸域でM4.0以上かつ震度3以上の地震、 海域でM5.0以上かつ震度3以上の地震、  
M6.0以上の地震、 以前に取り上げた地震活動で、活動が継続しているもの。

その他の活動<sup>注2)</sup>

月 日	時 分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	備考/コメント
9月1日	7時58分	奄美大島近海	55	5.4	3	
9月7日	3時06分	千葉県東方沖	38	5.1	3	太平洋プレートの沈み込みに伴う地震
9月7日	10時57分	千葉県北西部	69	4.6	3	太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震

注2)「その他の活動」とは、注1)の主な地震活動の基準に該当する地震で2006年9月中に発生したものを。

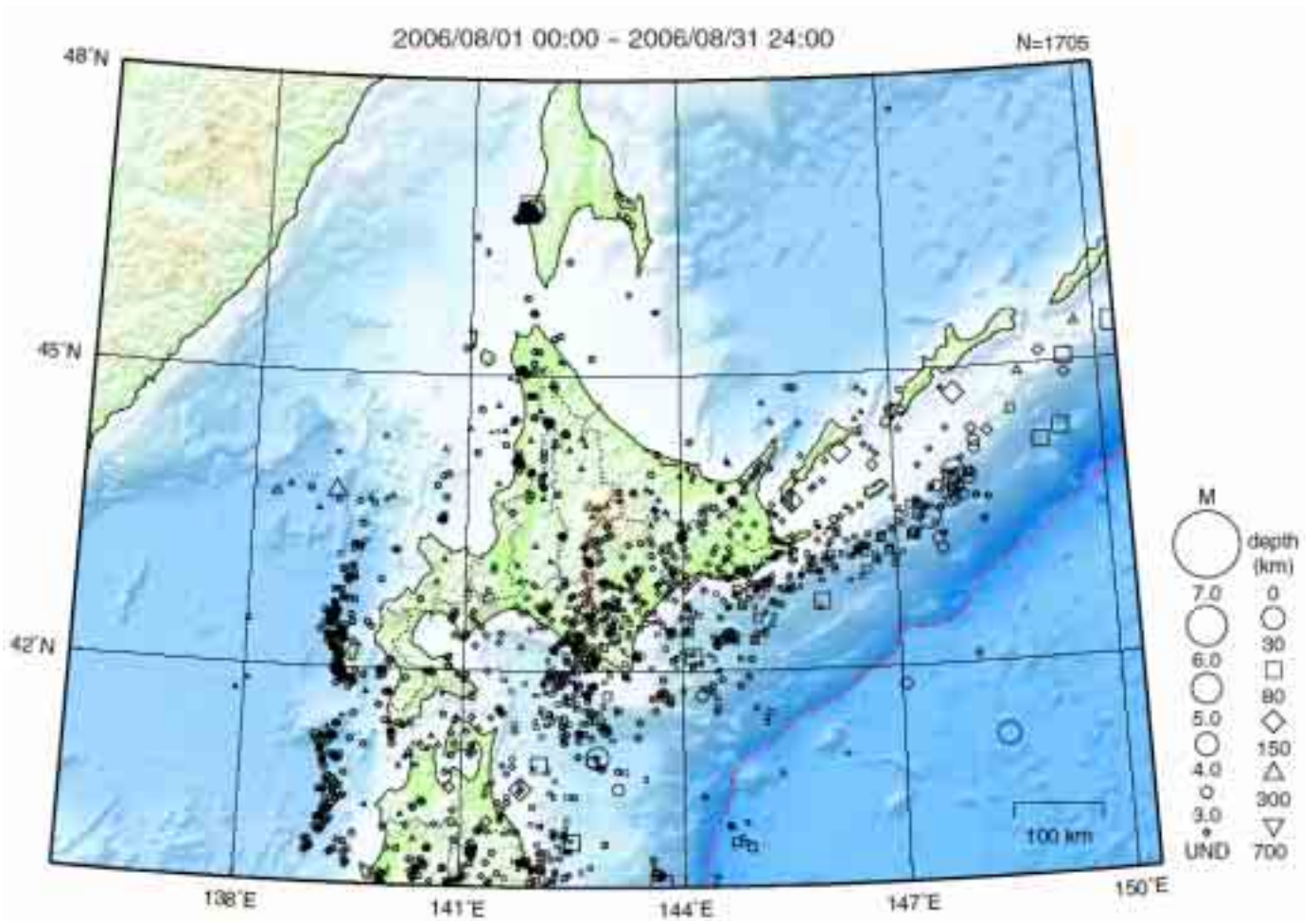
# 2006年8月の全国の地震活動（マグニチュード4.0以上）



父島近海で8月7日にM6.2の地震があった。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

# 北海道地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

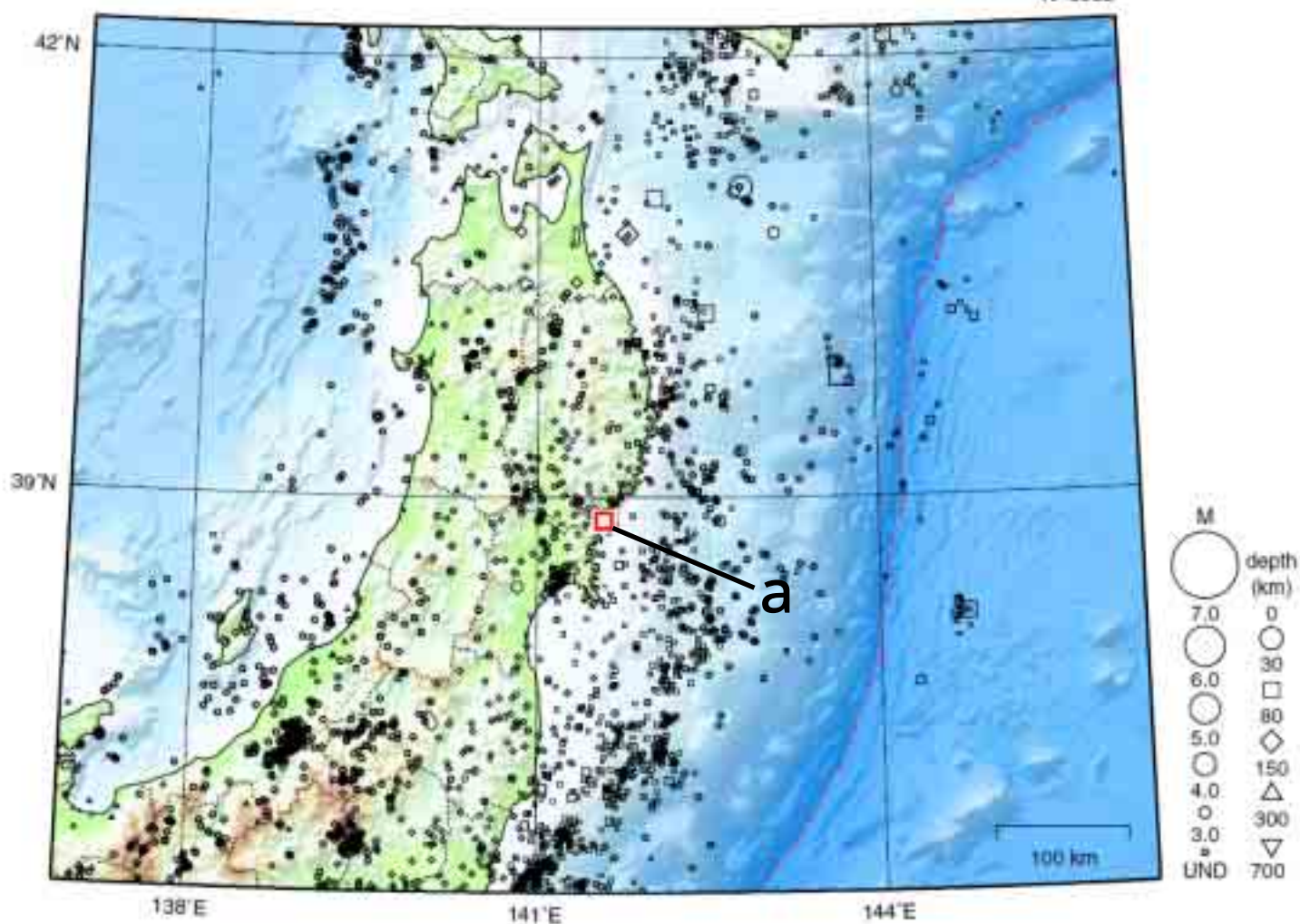
特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度3 以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 東北地方

2006/08/01 00:00 - 2006/08/31 24:00

N=3035



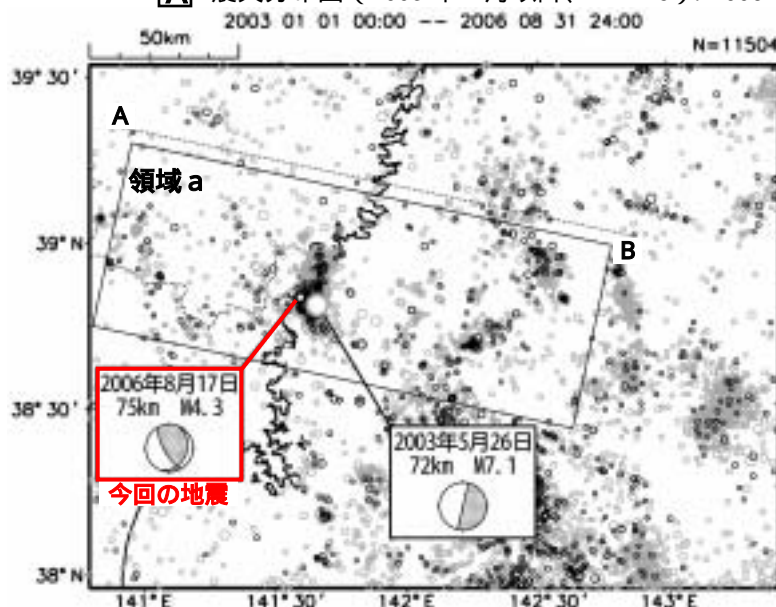
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

a) 8月17日に宮城県沖で M4.3 (最大震度3) の地震があった。

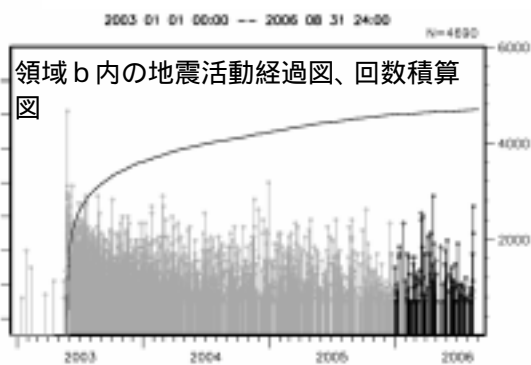
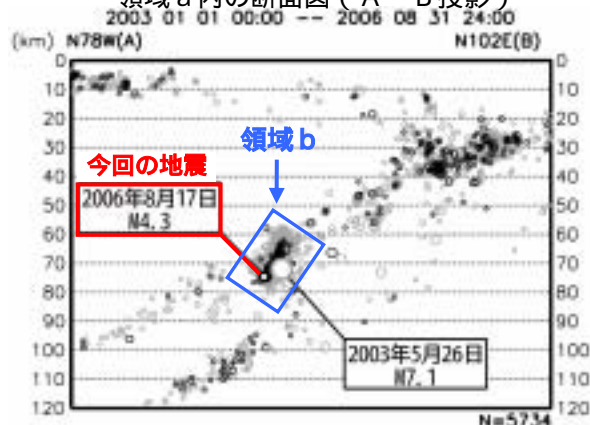
[ 上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。 ]

## 8月17日 宮城県沖の地震

**A** 震央分布図 (2003年1月以降、M 1.5). 2006年1月以降は濃く表示

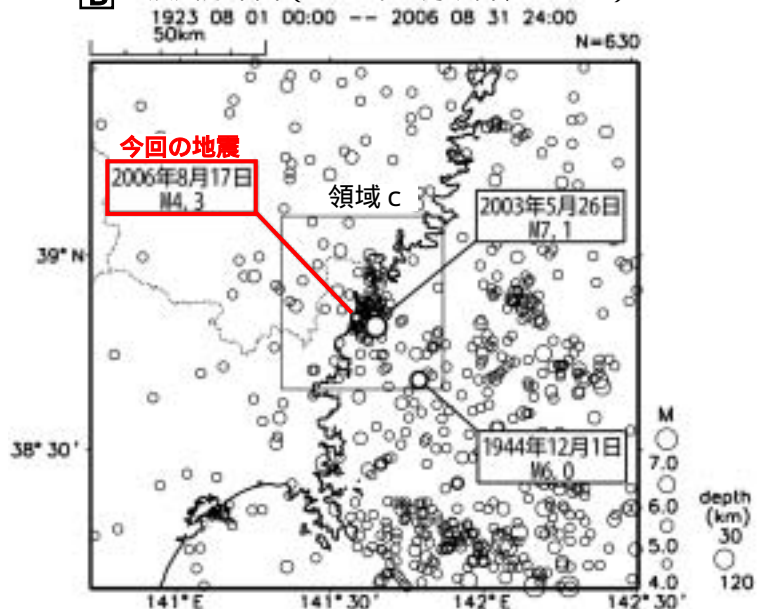


領域a内の断面図 (A - B 投影)

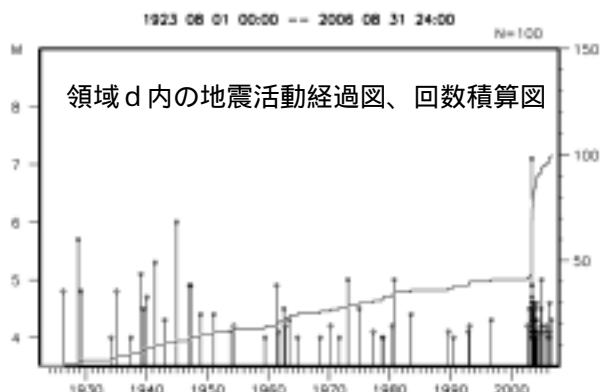


2003年5月26日に発生した宮城県沖の地震 (M7.1) の余震域内の深さ75kmで、2006年8月17日12時45分にM4.3 (最大震度3) の地震が発生した。発震機構は、沈み込む太平洋プレートの方に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。(A)

**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 4.0)



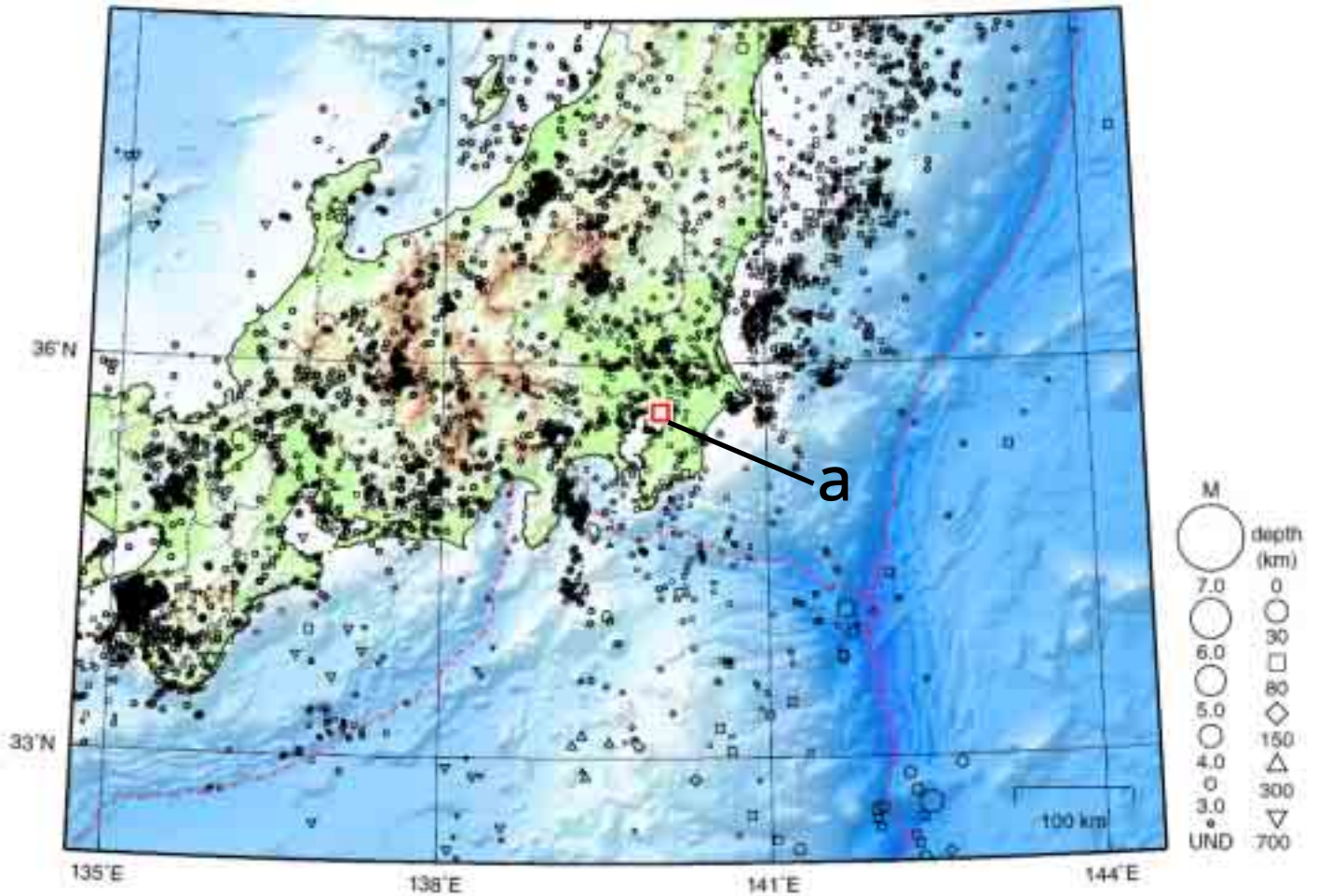
1923年8月以降の活動を見ると、領域cでは2003年5月26日の地震以降、余震活動の活発な状態が続いている。(B)



# 関東・中部地方

2006/08/01 00:00 - 2006/08/31 24:00

N=5044



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2 を使用

a) 8月31日に東京湾で M4.8 (最大震度4) の地震があった。

(上記期間外)

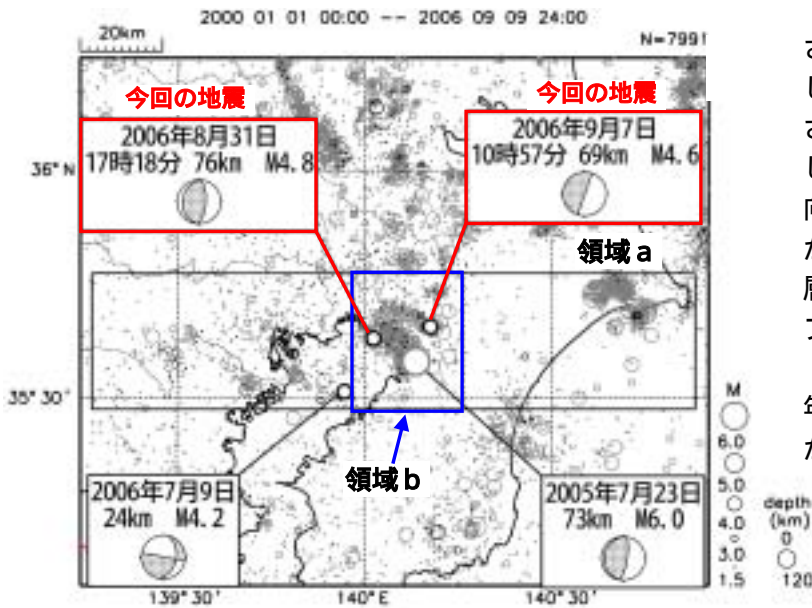
9月7日に千葉県東方沖で M5.1 (最大震度3) の地震があった。

9月7日に千葉県北西部で M4.6 (最大震度3) の地震があった。

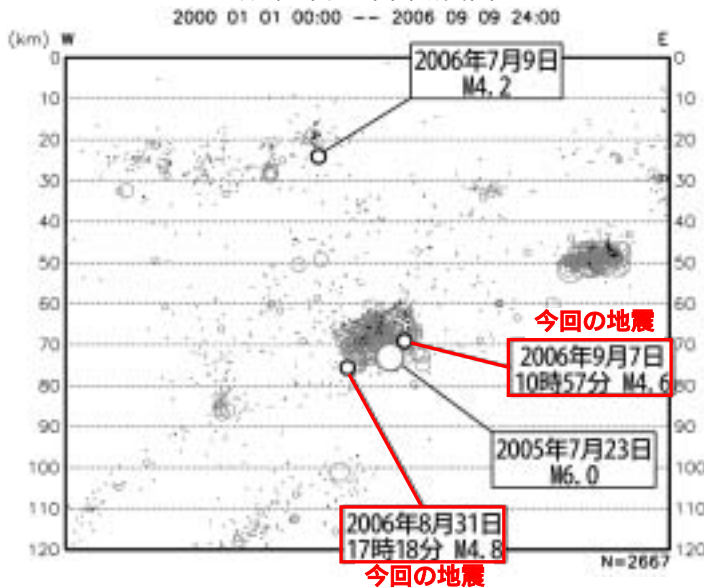
[ 上述の地震は M6.0 以上、陸域で M4.0 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 8月31日 東京湾、9月7日 千葉県北西部の地震

**A** 震央分布図（2000年1月以降、M 1.5）  
 [2006年7月以降の活動を濃く表示している。]

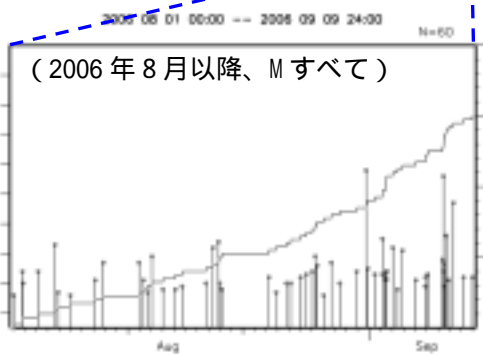
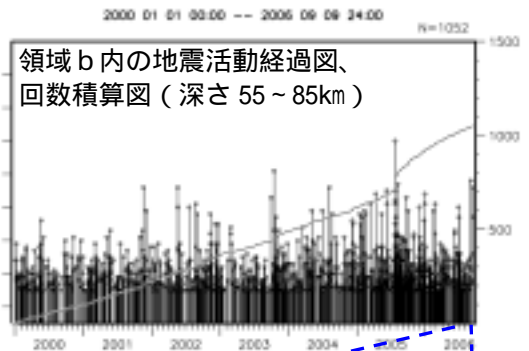


領域 a 内の東西断面図

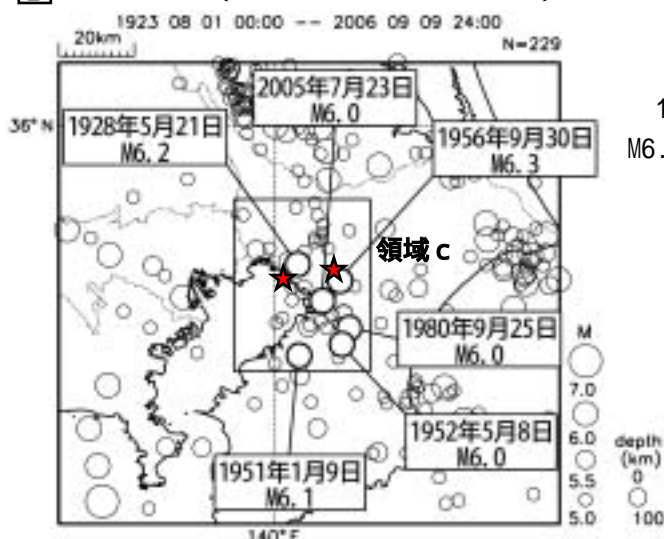


2006年8月31日17時18分に東京湾の深さ76kmでM4.8（最大震度4）の地震が発生した。また、9月7日にも千葉県北西部の深さ69kmでM4.6（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は8月31日の地震が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型、9月7日の地震が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、共に太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。

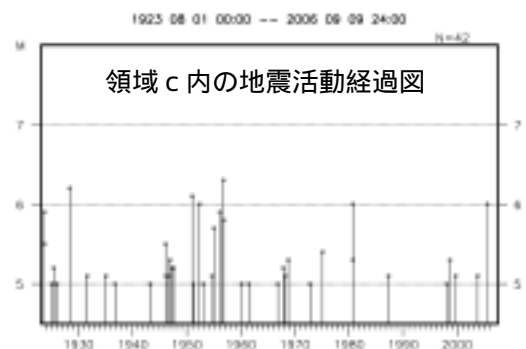
今回の地震の震源付近では、最近では2005年7月23日にM6.0（最大震度5強）の地震が発生している。（**A**）



**B** 震央分布図（1923年8月以降、M 5.0）



1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0以上の地震が6回観測されている。（**B**）



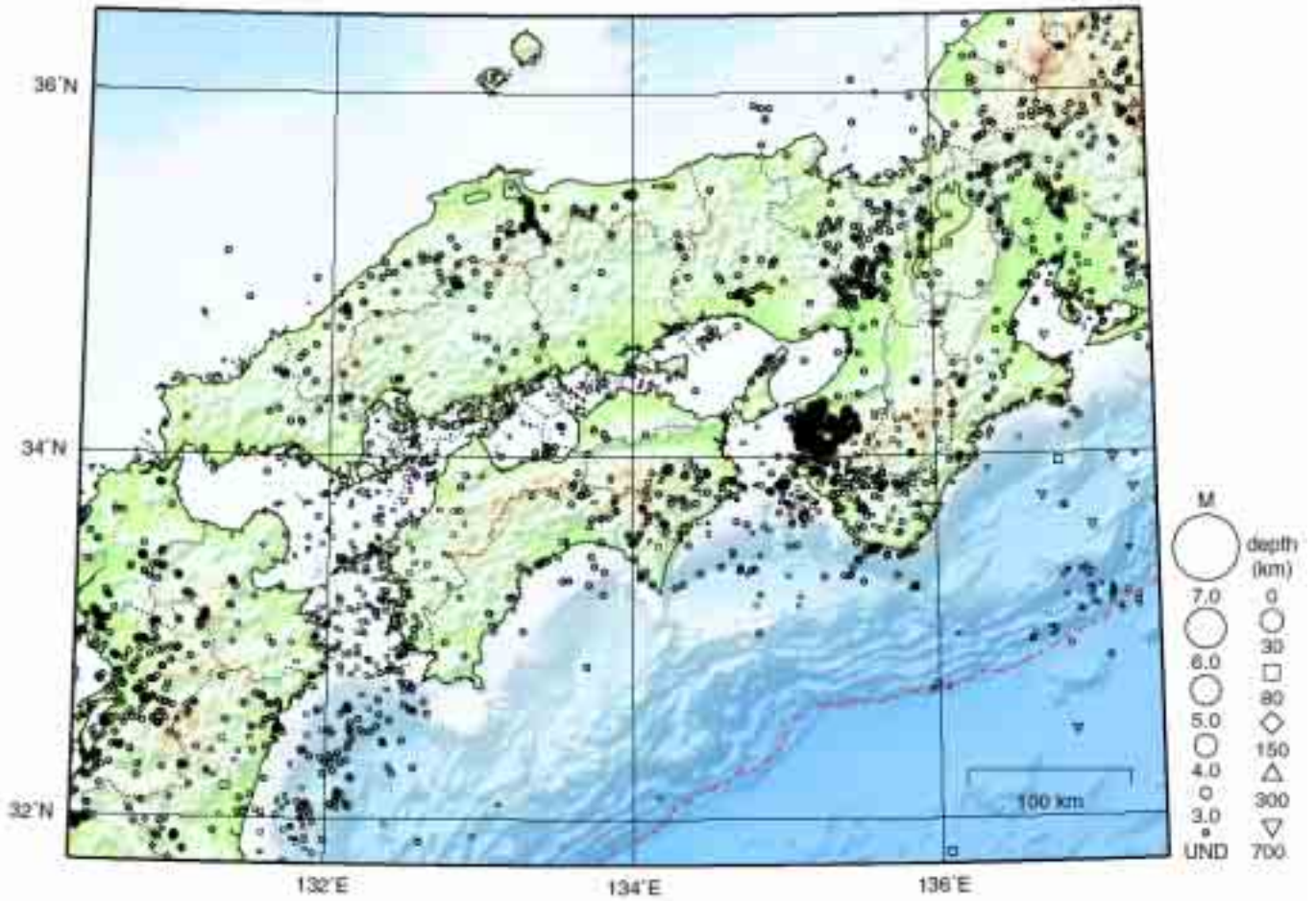
★：今回の地震の震央位置



# 近畿・中国・四国地方

2006/08/01 00:00 - 2006/08/31 24:00

N=2860

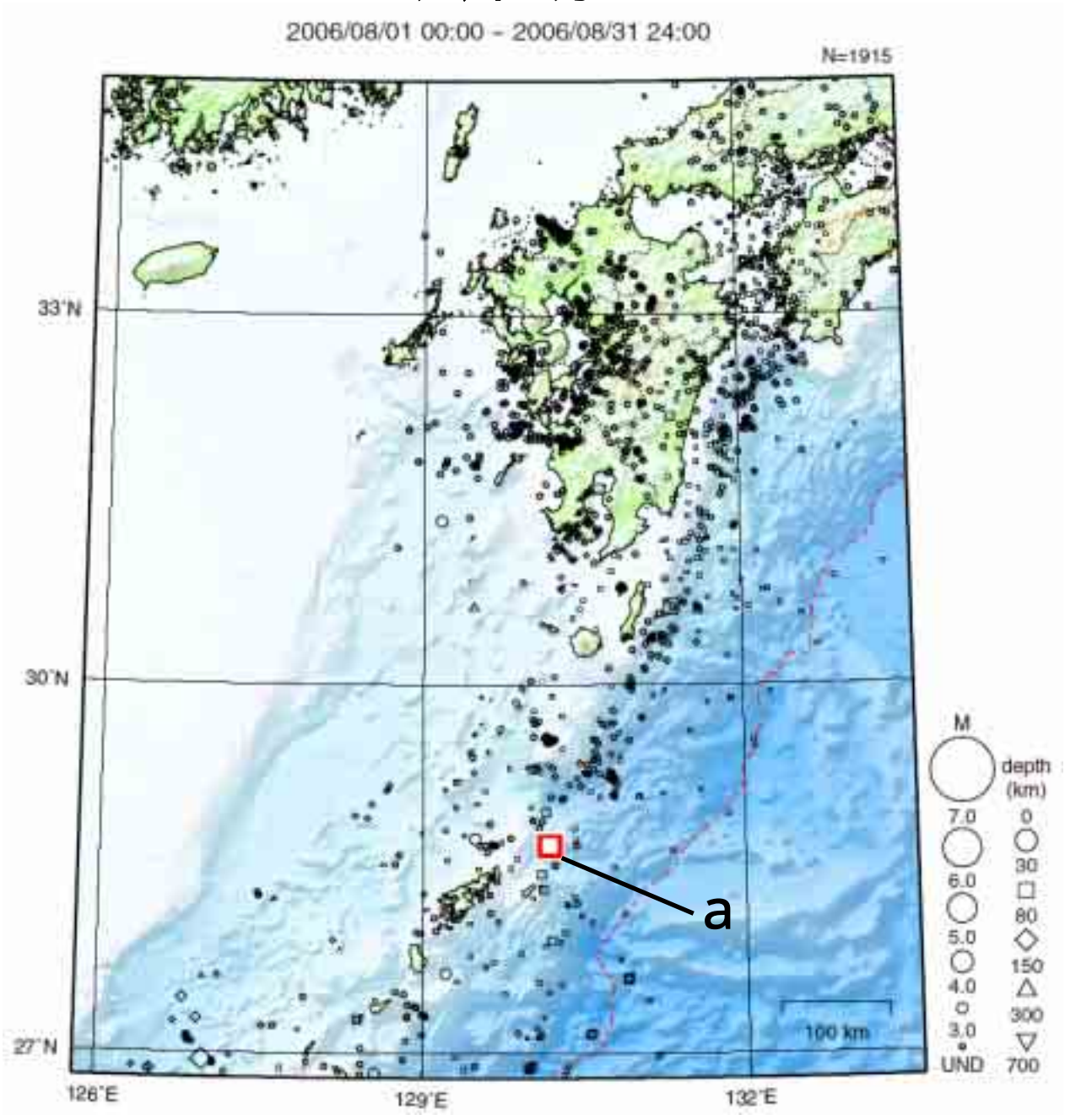


地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 九州地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

a) 8月13日に奄美大島近海で M5.3 (最大震度3) の地震があった。

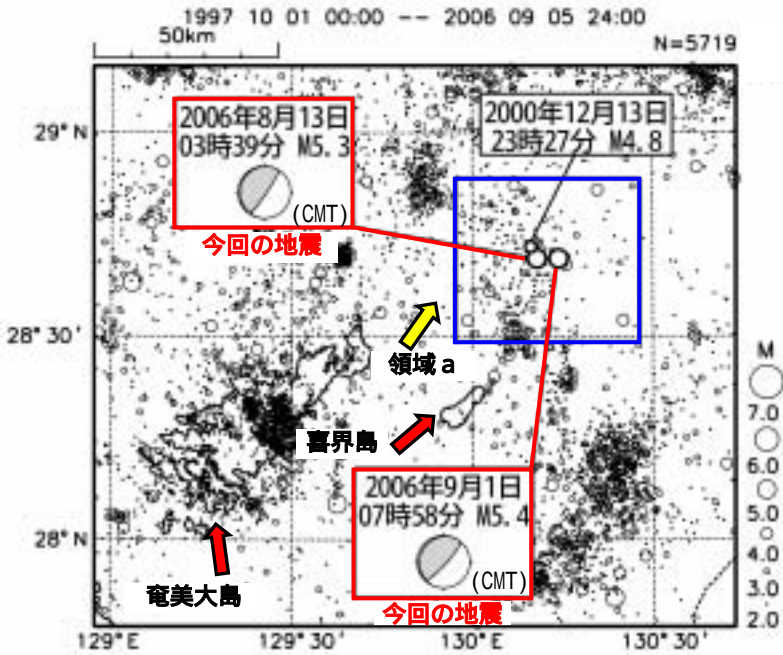
(上記期間外)

9月1日に奄美大島近海で M5.4 (最大震度3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

# 8月13日、9月1日 奄美大島近海の地震活動

**A** 震央分布図 (1997年10月以降、M 2.0)

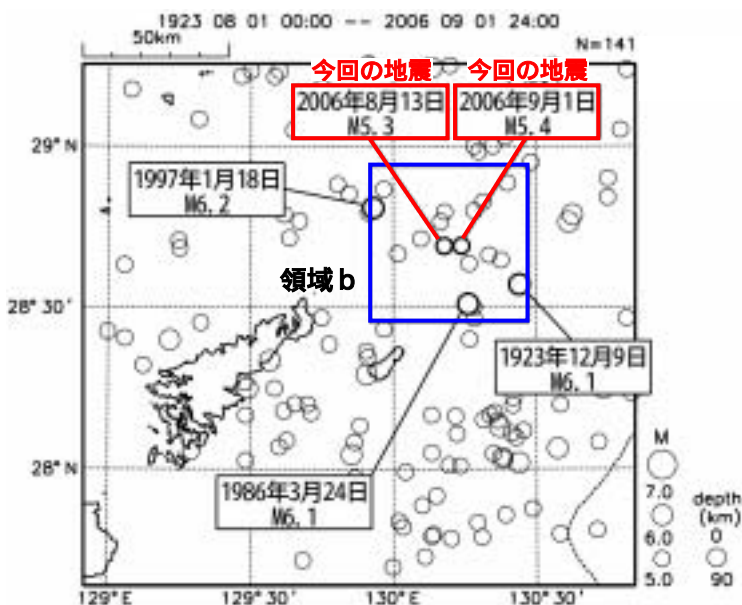


2006年8月13日03時39分に奄美大島近海でM5.3(最大震度3)の地震が発生した。余震活動は低調であった。また、この地震のすぐ東側で9月1日07時58分にM5.4(最大震度3)の地震が発生した。余震活動はやや活発な状態が続いている。この2つの地震の発震機構(CMT解)は共に西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

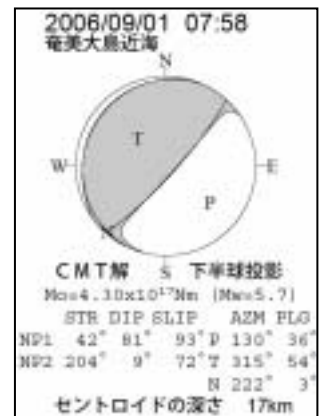
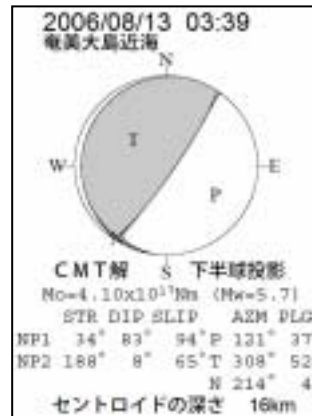
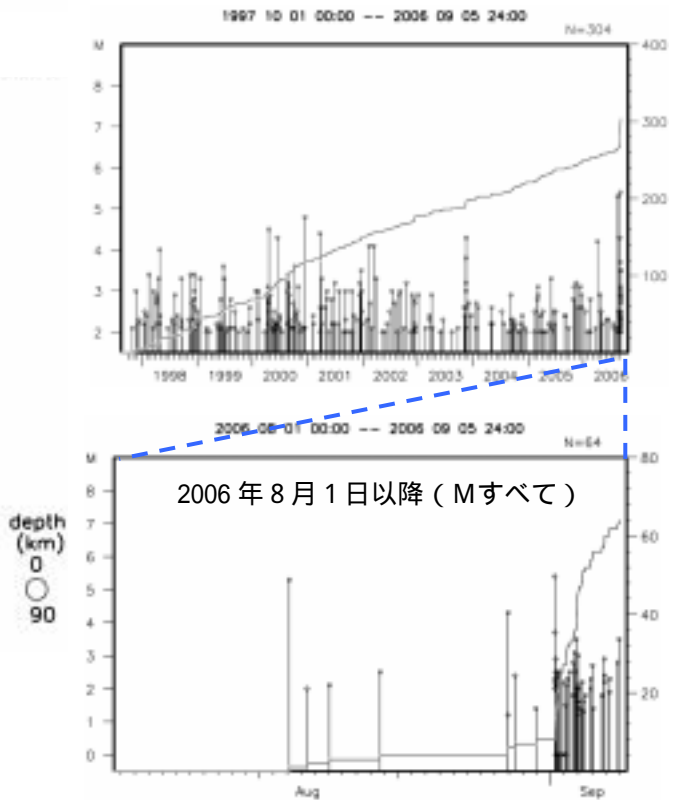
今回の地震の震源付近では、2000年12月13日にM4.8(最大震度2)の地震が発生するなど、M5クラスの地震が時々発生している。

(A)

**B** 震央分布図 (1923年8月以降、M 5.0)



領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図

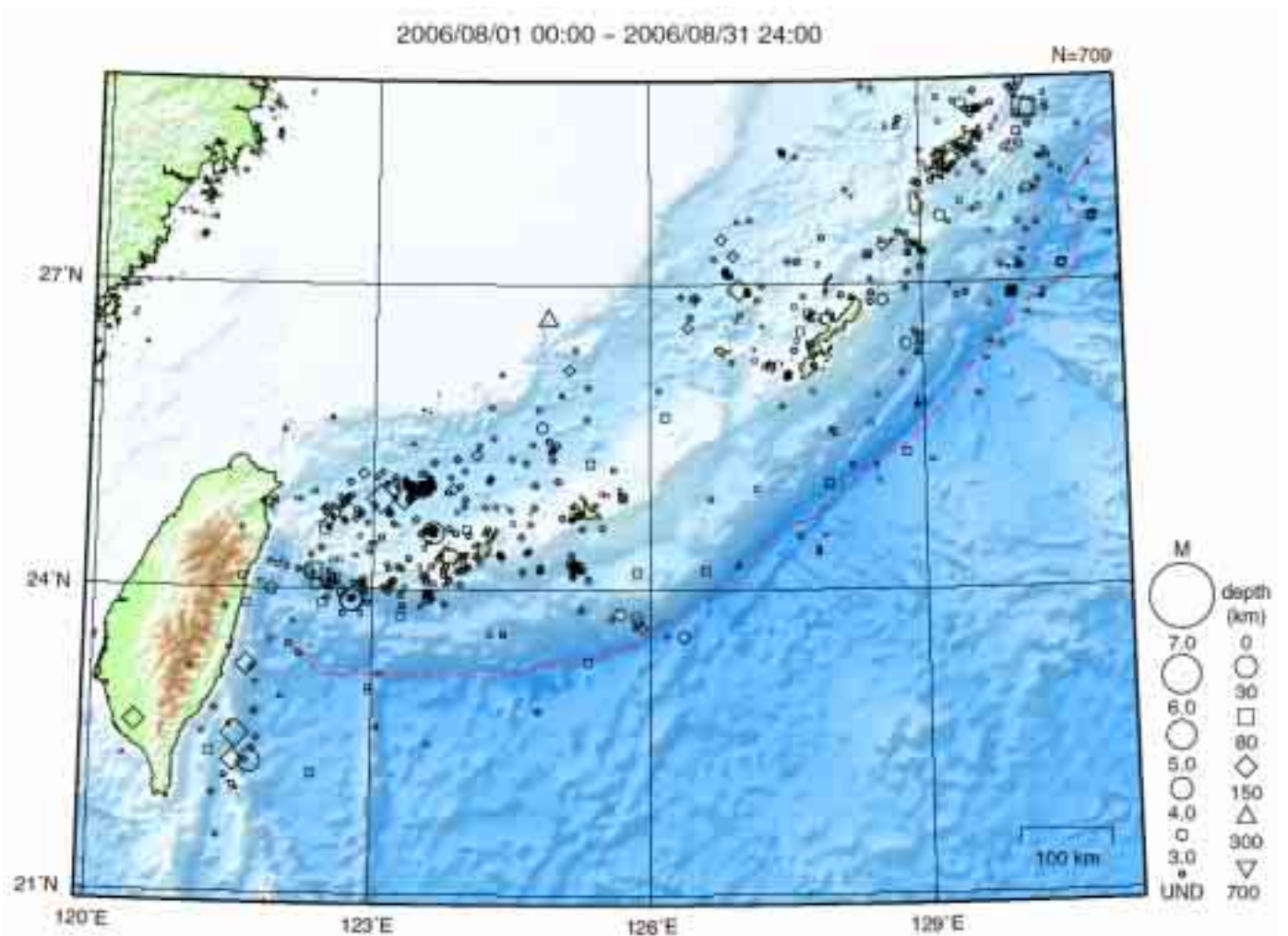


今回の地震の発震機構 (気象庁CMT解)

1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の付近ではM6.0以上の地震は3回発生している。最大は1997年1月18日のM6.2である。(B)



# 沖縄地方



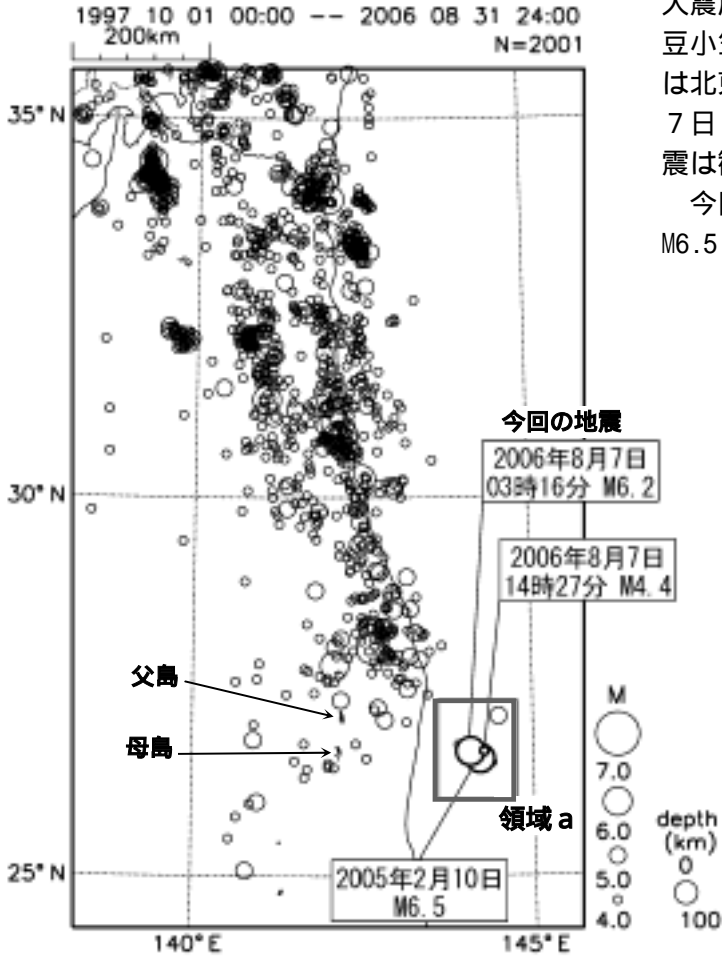
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02 を使用

特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。 ]

# 8月7日 父島近海の地震

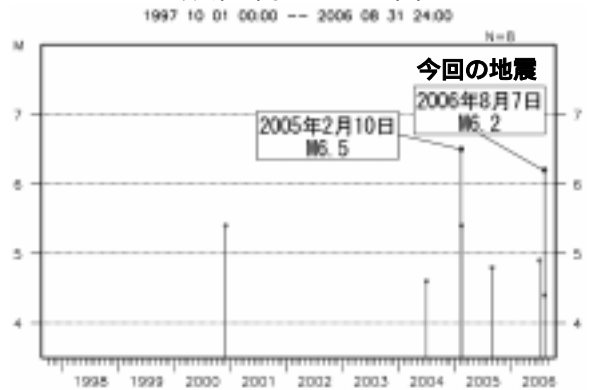
**A** 震央分布図  
(1997年10月以降、深さ0~100km、M 4.0)



2006年8月7日03時16分に父島近海でM6.2(最大震度2)の地震が発生した。今回の地震の震央は伊豆小笠原海溝軸よりも東側に位置している。発震機構は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。7日14時27分にM4.4の地震が観測された他は、余震は観測されていない。

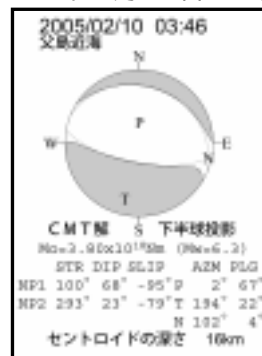
今回の地震の震央付近では、2005年2月10日にM6.5(最大震度2)の地震が発生している( **A** )。

領域a内のM-T図

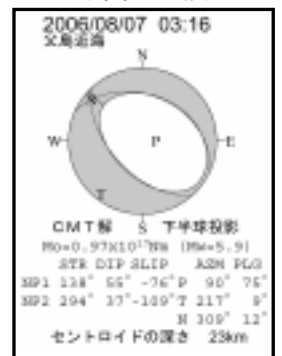


発震機構 (CMT解)

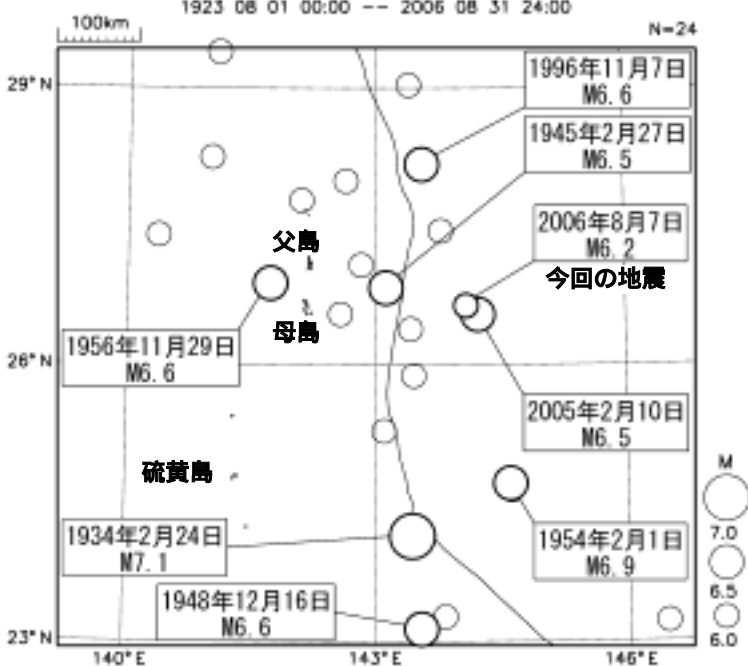
2005年2月10日の地震



今回の地震

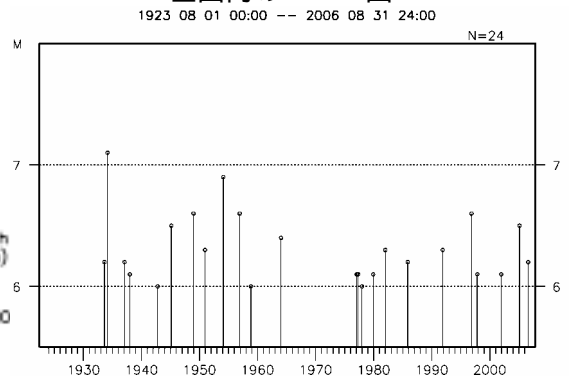


**B** 震央分布図  
(1923年8月以降、深さ0~100km、M 6.0)



1923年8月以降の活動を見ると、父島周辺の海域では、M6.0以上の地震が度々発生している。最大は1934年2月24日のM7.1の地震である。( **B** )

左図内のM-T図





## 東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

静岡県西部のフィリピン海プレート内で M3.0 の地震が発生したほか、愛知県東部の地殻内で M3.2、愛知・岐阜県境付近のフィリピン海プレート内で M3.9 の地震が発生した。

8月27日頃から9月1日頃にかけて、愛知・長野県境付近下のプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる、歪変化と低周波地震活動が観測された(図5、図6)。

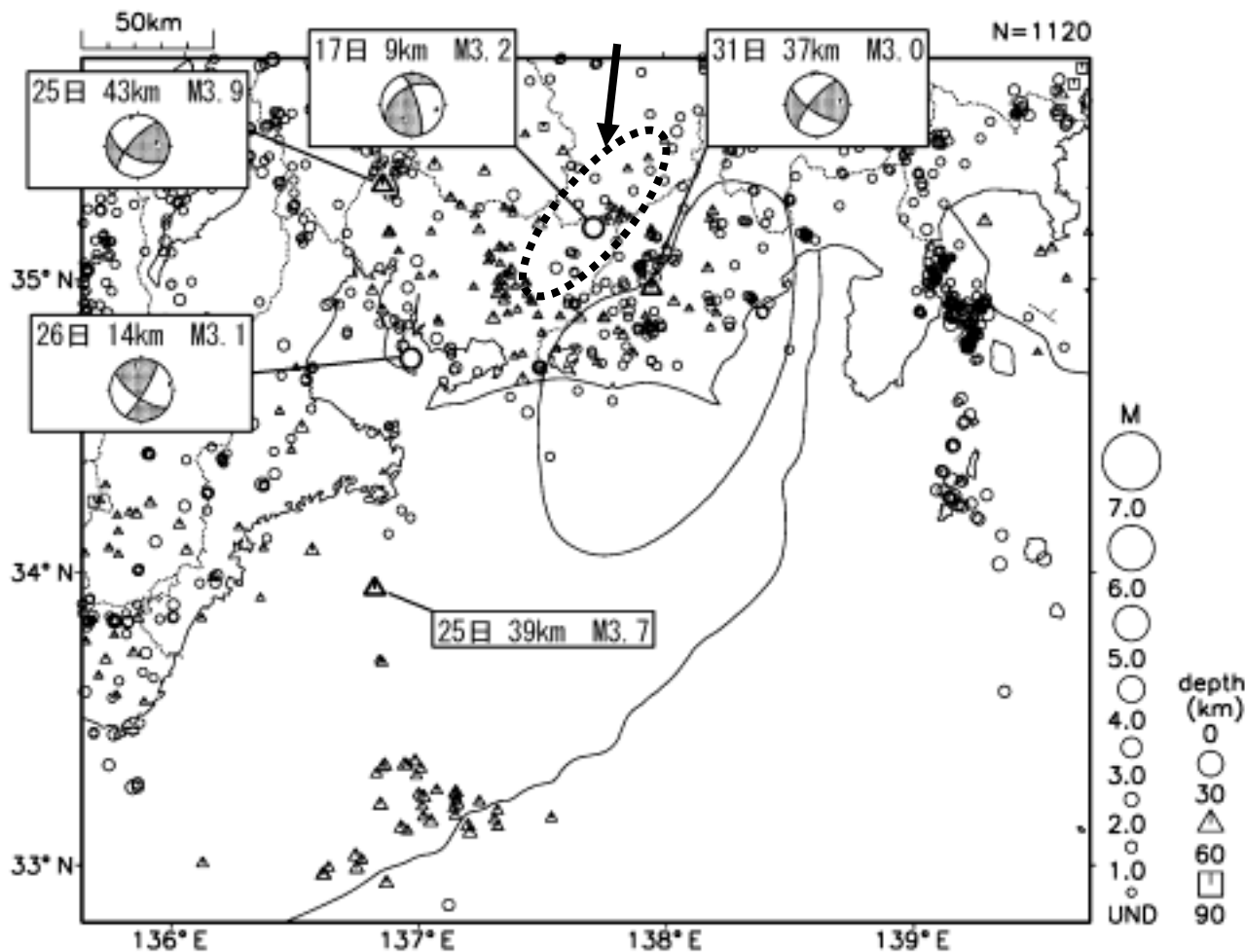


図1 震央分布図(2006年8月1日~31日:深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震(東海道沖はM4.0以上)に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構(下半球投影)。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。)

17日07時48分、愛知県東部の深さ9kmでM3.2の地震があり、最大震度2を観測した。この地震の発震機構は東南東-西北西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。

25日05時22分、熊野灘の深さ39kmでM3.7の地震があり、最大震度1を観測した。フィリピン海プレート内で発生した地震である。

25日21時31分、愛知・岐阜県境付近[愛知県西部]の深さ43kmでM3.9の地震があり、最大震度3を観測した。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。フィリピン海プレートの内部で発生した地震である。

26日21時51分、三河湾の深さ14kmでM3.1の地震があり、最大震度2を観測した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。

8月27日頃から、愛知・長野県境付近下のプレート境界の短期的なゆっくり滑りに起因すると見られる、歪変化と低周波地震活動が観測された。同様の現象は今年1月にも観測されている。(平成18年1月地震・火山月報(防災編)を参照。この現象の詳細については、平成17年7月地震・火山月報(防災編)を参照。)

31日00時44分、静岡県西部の深さ37kmで

M3.0の地震があった。この地震の発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。フィリピン海プレートの内部で発生した地震である。

注：本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1、図4)と「固着域」(図7)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

・「クラスタ除去」(図7、8)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3 km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

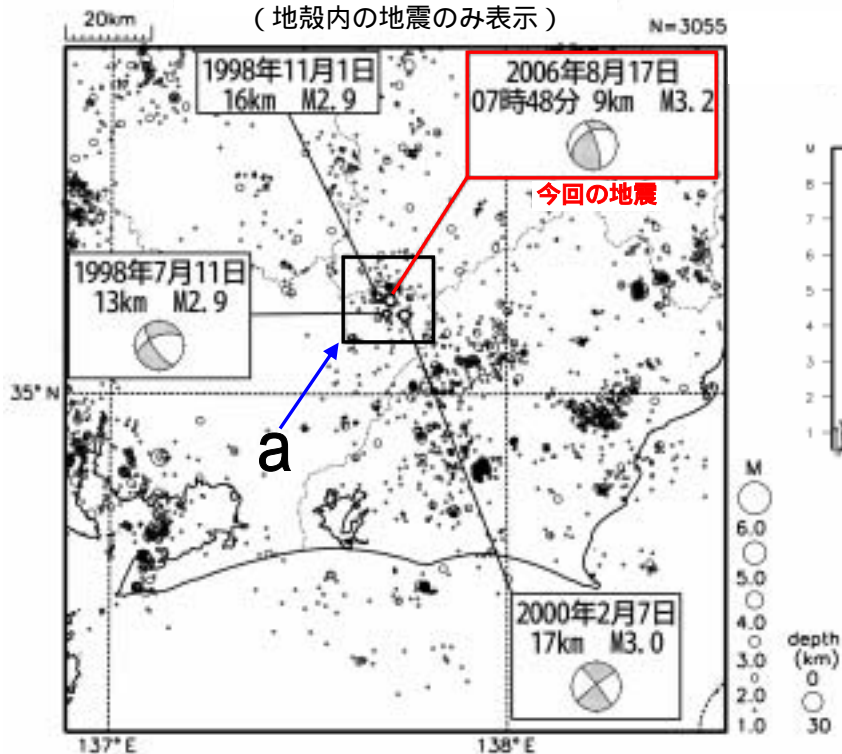
大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。)として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講ずることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる174市町村(平成18年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。



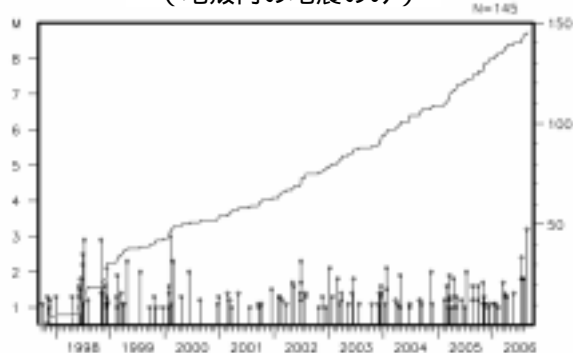
## 8月17日 愛知県東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2006年8月28日、深さ0～30km、M 1.0)  
(地殻内の地震のみ表示)



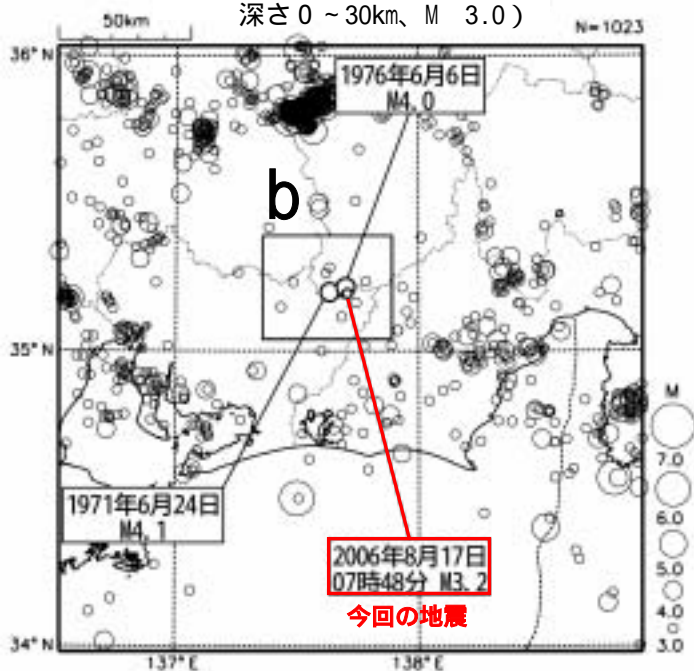
領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図  
(地殻内の地震のみ)



2006年8月17日07時48分に愛知県東部の深さ9kmでM3.2(最大震度2)の地震が発生した。余震は観測されていない。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、付近ではよく見られるものである。今回の地震の震源付近でM3.0以上の地震は、2000年2月7日に発生したM3.0(震度1以上を観測した地点なし)の地震以来であった。

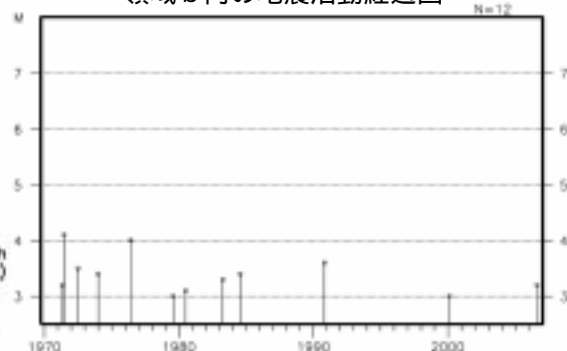
震央分布図

(1970年1月1日～2006年8月28日、  
深さ0～30km、M 3.0)



1970年以降、今回の地震の震源付近では、1970年代にM4.0以上の地震が2回発生しているが、1976年6月6日のM4.0の地震以降、M4.0以上の地震は発生していない。

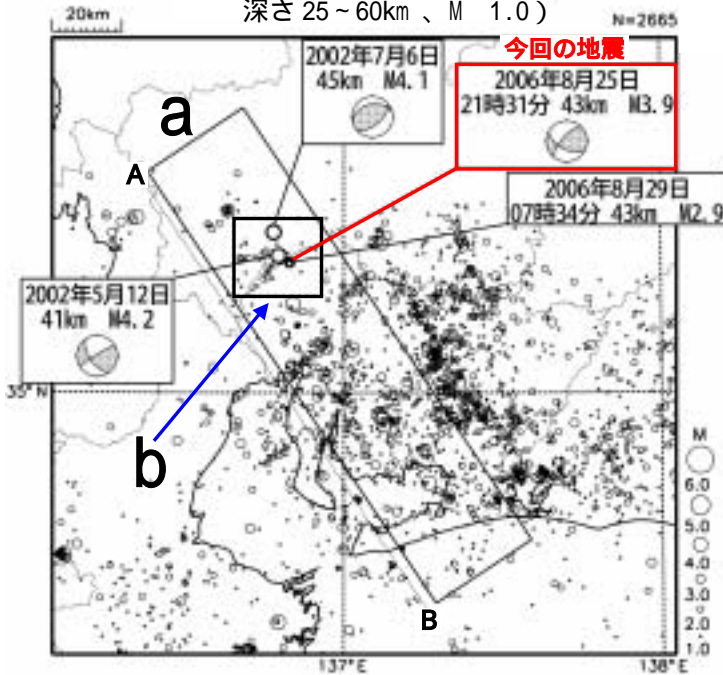
領域 b 内の地震活動経過図



# 8月25日 愛知・岐阜県境付近〔愛知県西部〕の地震

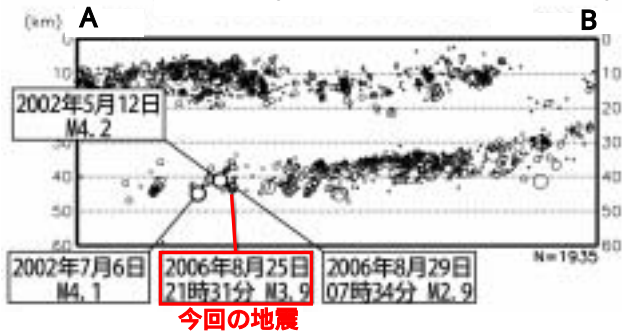
震央分布図

(1997年10月1日~2006年8月29日、  
深さ25~60km、M 1.0)

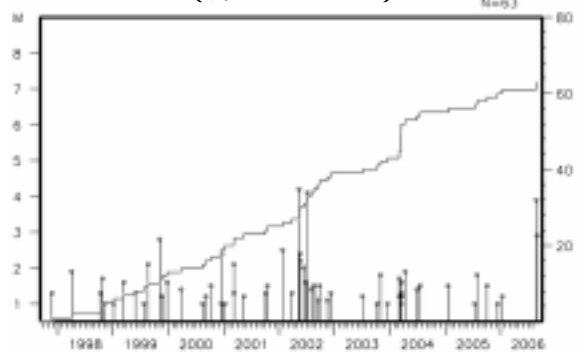


2006年8月25日21時31分に愛知・岐阜県境付近〔愛知県西部〕の深さ43kmでM3.9(最大震度3)の地震が発生した。余震は29日07時34分にM2.9(暫定、最大震度1)が1回観測されている。発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。今回の地震の震源付近では、2002年5月12日にM4.2(最大震度2)、2002年7月6日にM4.1(最大震度2)の地震が発生している。

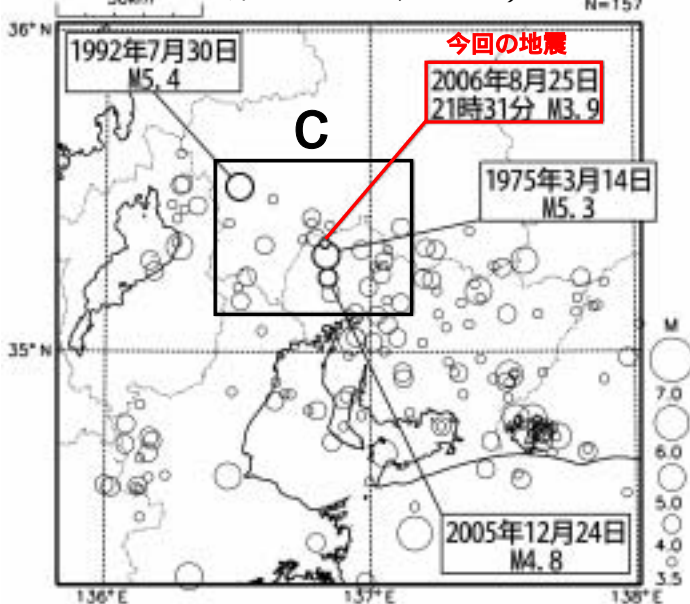
領域a内の断面図(A-B投影、深さ0~60km)



領域b内の地震活動経過図、回数積算図  
(深さ25~60km)



震央分布図(1970年1月1日~2006年8月28日、  
深さ30~90km、M 3.5)



1970年以降、今回の地震の震源付近では、1975年3月14日にM5.3(最大震度3)の地震が発生するなど、M5.0前後の地震が数年に1度発生している。

領域c内の地震活動経過図

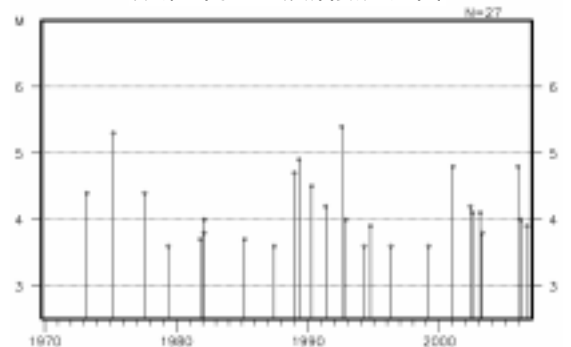
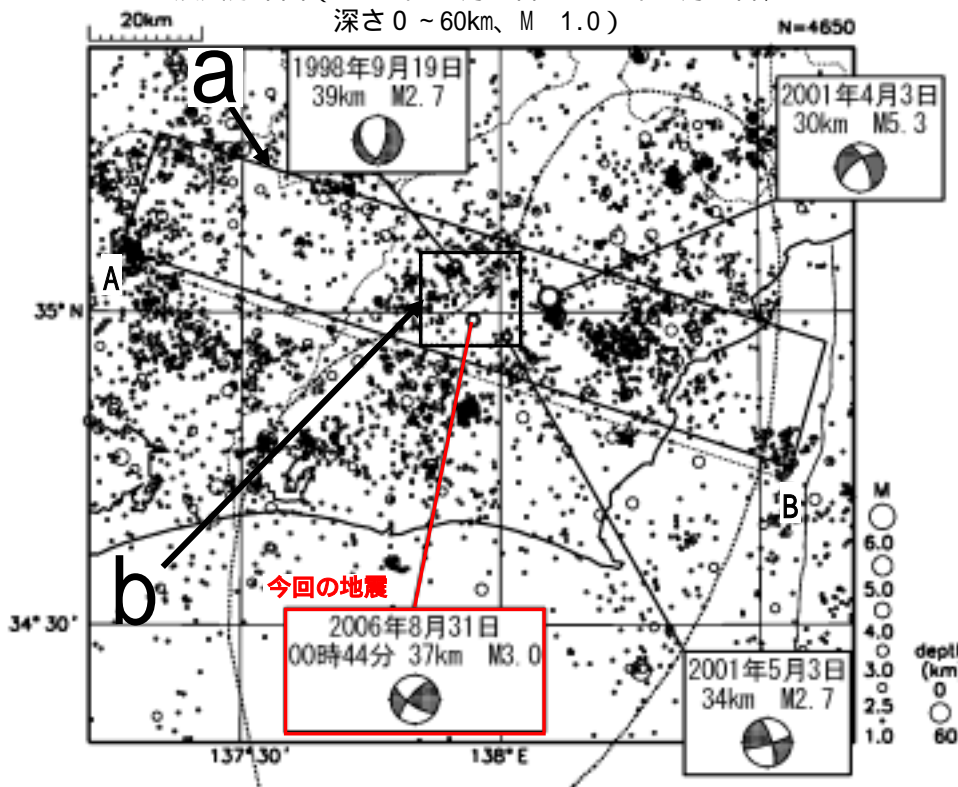


図3 愛知・岐阜県境付近の地震

# 8月31日 静岡県西部の地震

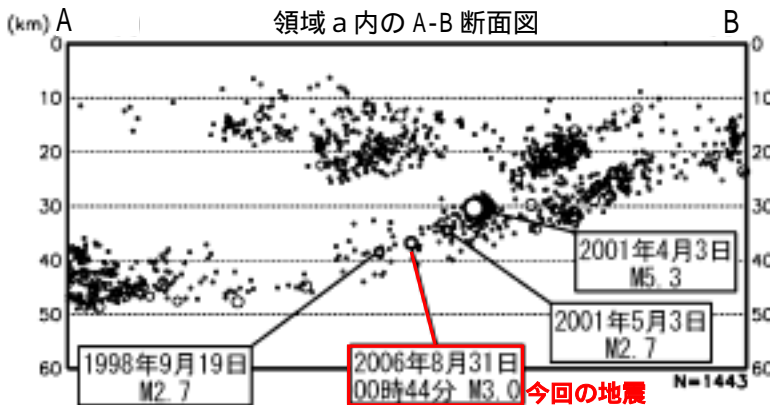
震央分布図 (1997年10月1日~2006年9月3日、  
深さ0~60km、M 1.0)



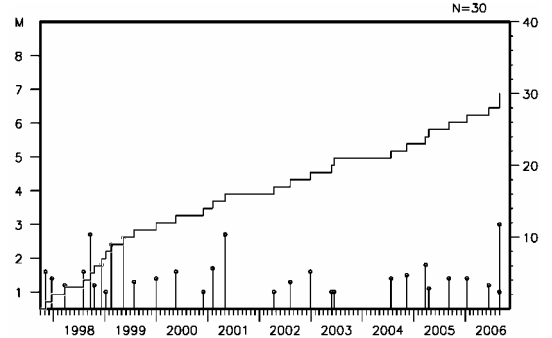
2006年8月31日00時44分に静岡県西部の深さ37kmでM3.0の地震が発生した。発震機構は東西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。今回の地震の震源付近は地震活動が活発ではなく、M2.5以上の地震は2001年5月3日のM2.7以来であった。今回の震源の東方約15kmのフィリピン海プレート内では、2001年4月3日にM5.3(最大震度5強)が発生している。

1923年8月以降、今回の地震の震源周辺では、1931年8月10日のM5.8(最大震度3)が最大である。

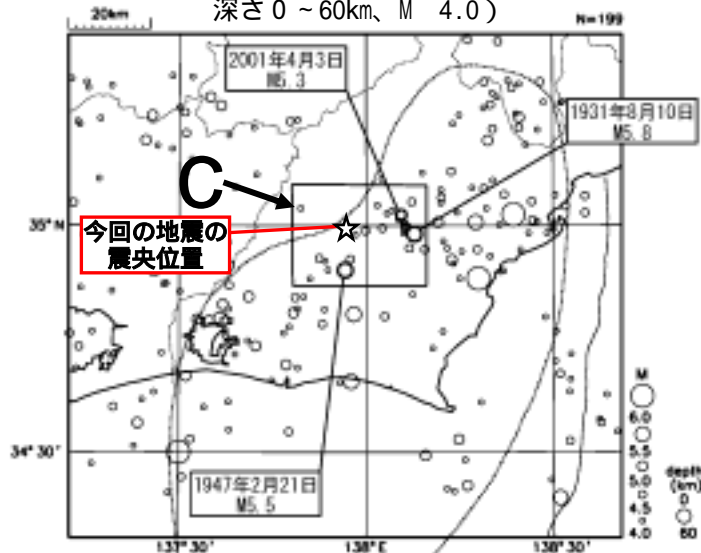
[破線の曲線で囲んだ領域は東海地震の想定震源域を示している]



領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (フィリピン海プレートの地震のみ)



震央分布図 (1923年8月1日~2006年9月3日、  
深さ0~60km、M 4.0)



領域c内の地震活動経過図

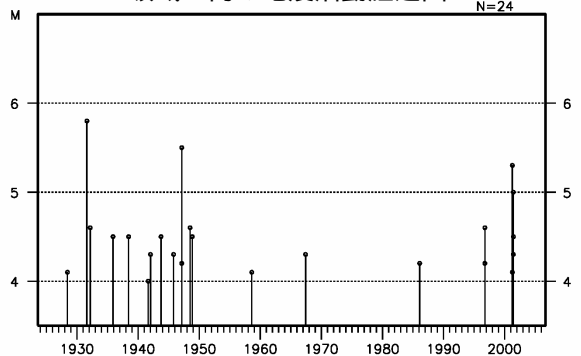


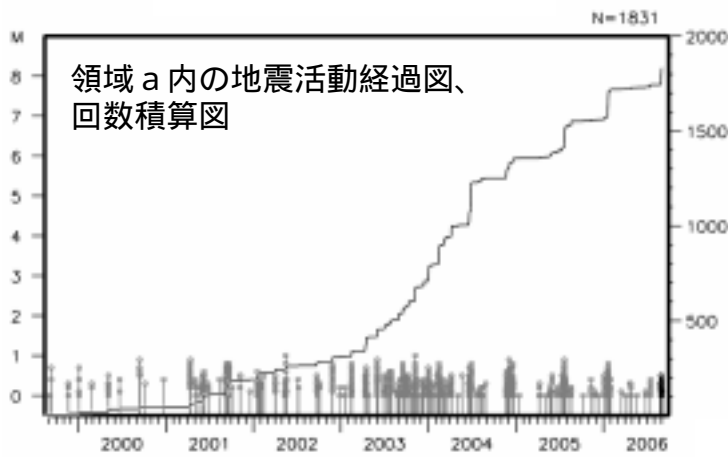
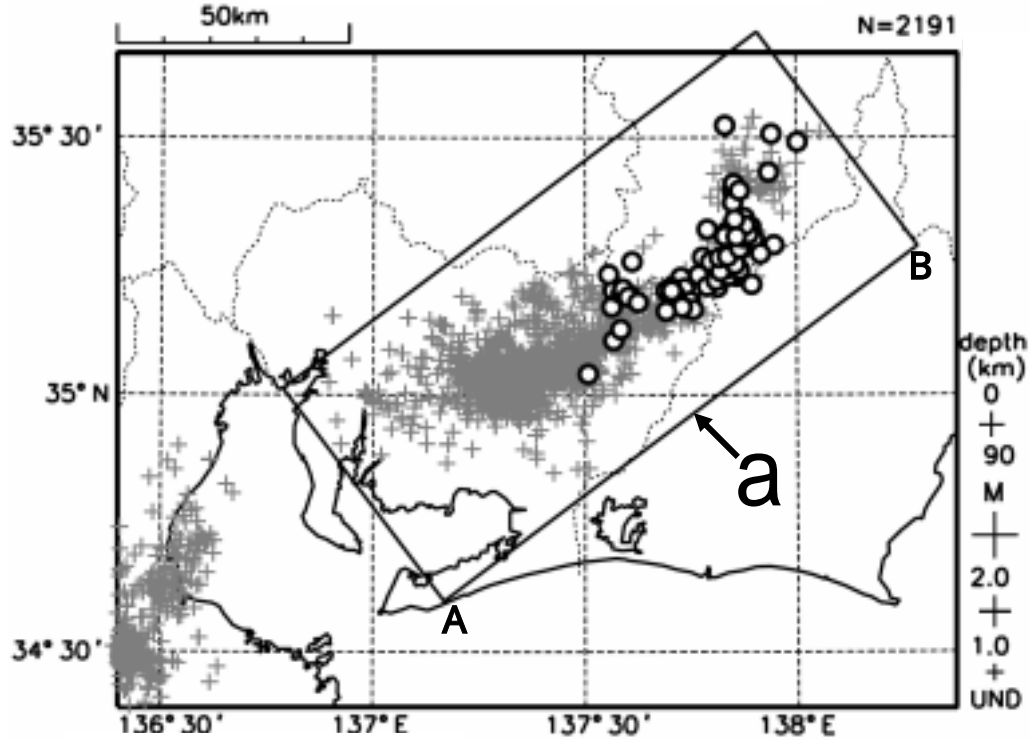
図4 静岡県西部の地震

# 愛知・長野県境付近の低周波地震活動

## 震央分布図

(低周波地震のみ、1999年9月1日~2006年9月3日、深さ0~90km、Mすべて)

[2006年8月28日以降の地震を濃い で表示している。]



2006年8月28日頃から9月1日頃にかけて、長野県南部から愛知県東部で低周波地震活動が活発化した。

領域a内の時空間分布図 (A - B投影、2006年8月27日以降)

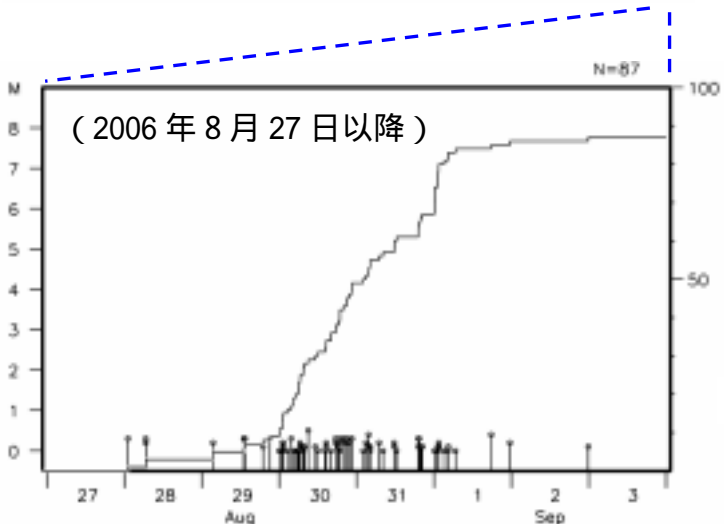
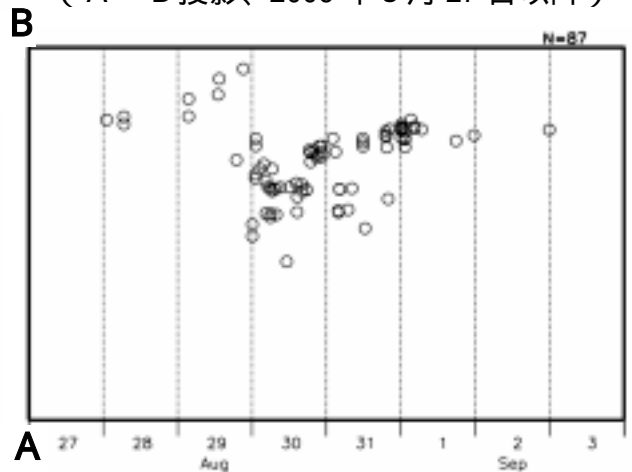
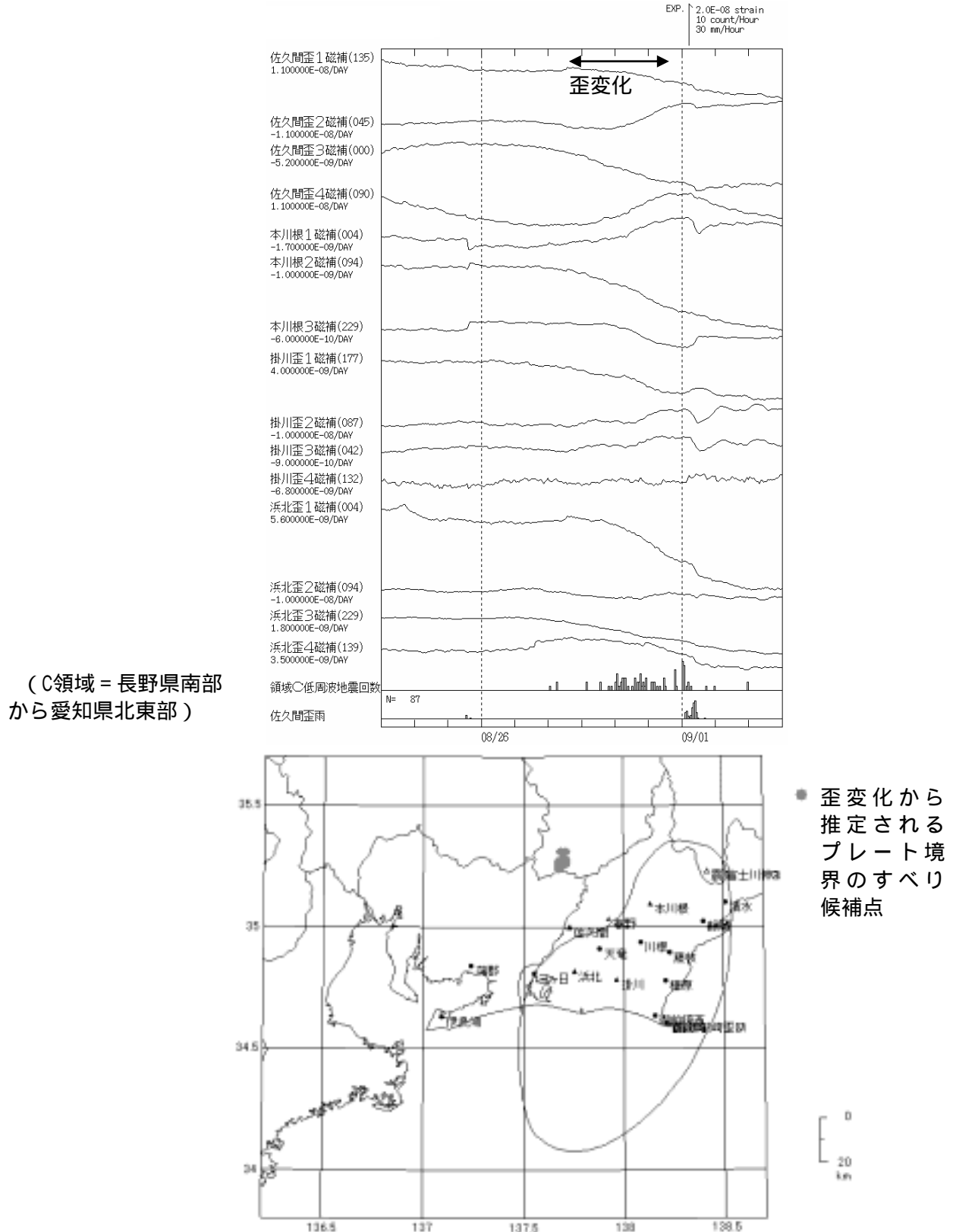


図5 愛知・長野県境付近の低周波地震活動

## 短期的スロースリップに伴う歪計の変化

8月27日頃から9月1日頃にかけて、低周波地震の活動とともに、気象庁の佐久間及び静岡県の本川根などの歪計において同期した変化が観測された。



歪変化から推定される短期的スロースリップのソースの位置は、長野県南部に求まる。すべりの規模はM5.7～M5.8と推定される。

図6 短期的スロースリップに伴う歪計の変化

## 東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2006年8月28日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	4	7	7	2	4	1	1	4
短期地震回数 (平均)	6 (6.34)	11 (5.90)	9 (4.49)	8 (12.63)	1 (2.38)	1 (5.91)	0 (3.53)	5 (6.11)
中期活動指数	7	6	5	1	1	0	0	4
中期地震回数 (平均)	28 (19.03)	24 (17.69)	16 (13.46)	26 (37.90)	1 (4.76)	2 (11.82)	1 (7.06)	13 (12.22)

\* Mしきい値:

M<sub>≥</sub>1.1: 固着域、愛知県、浜名湖、M<sub>≥</sub>1.4: 駿河湾

\* クラスタ除去:

震央距離が $\Delta r$ 以内、発生時間差が $\Delta t$ 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ : 固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ : 駿河湾

\* 対象期間:

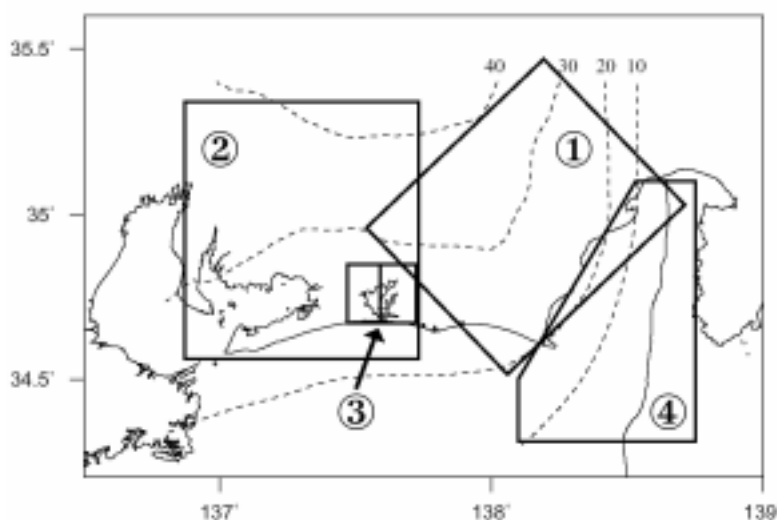
短期: 30日間 (固着域、愛知県)、90日間 (浜名湖、駿河湾)

中期: 90日間 (固着域、愛知県)、180日間 (浜名湖、駿河湾)

\* 基準期間:

1997年—2001年 (5年間): 固着域、愛知県、1998年—2000年 (3年間): 浜名湖

1991年—2000年 (10年間): 駿河湾



\* プレート境界の等深線を波線で示す。

指数	確率 (%)	地震数
8	1	多
7	4	↑
6	10	↑
5	15	↑
4	40	平常
3	15	↓
2	10	↓
1	4	↓
0	1	少

図7 東海地域の地震活動指数

浜名湖は、活動指数の低い状態が続いている。中期の指数を見ると、固着域地殻内は高く、愛知県のフィリピン海プレート内は低い。短期の指数では、固着域フィリピン海プレート内および愛知県地殻内がやや高くなったが、揺らぎによるものと考えられる。それ以外の地域は、ほぼ平常の活動であった。



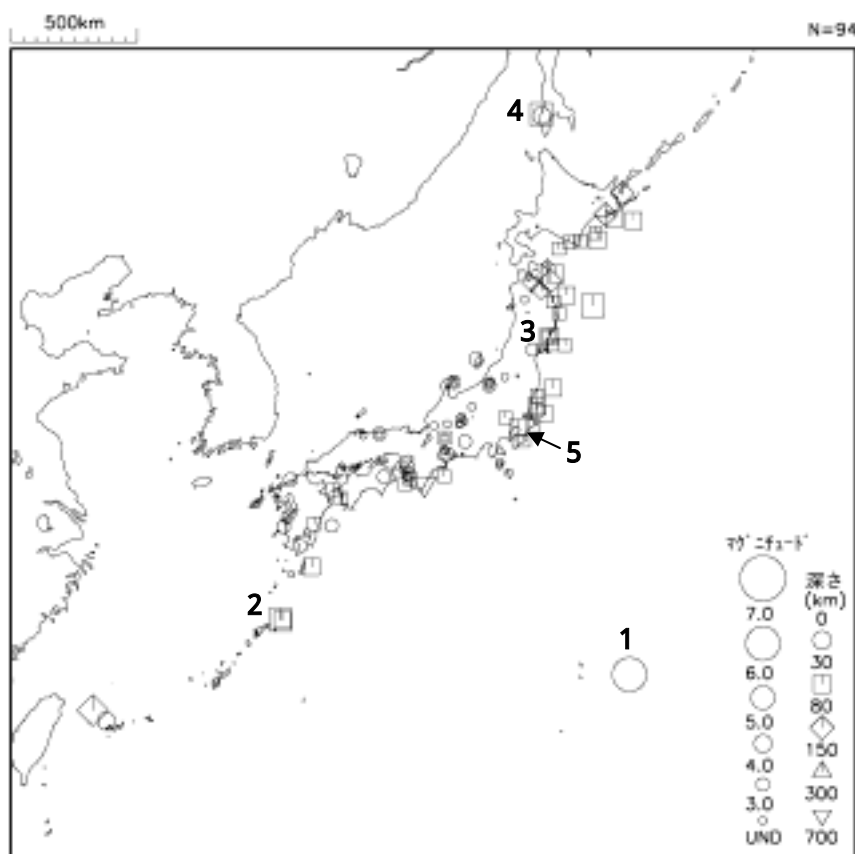


図1 2006年8月に震度1以上を観測した地震  
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

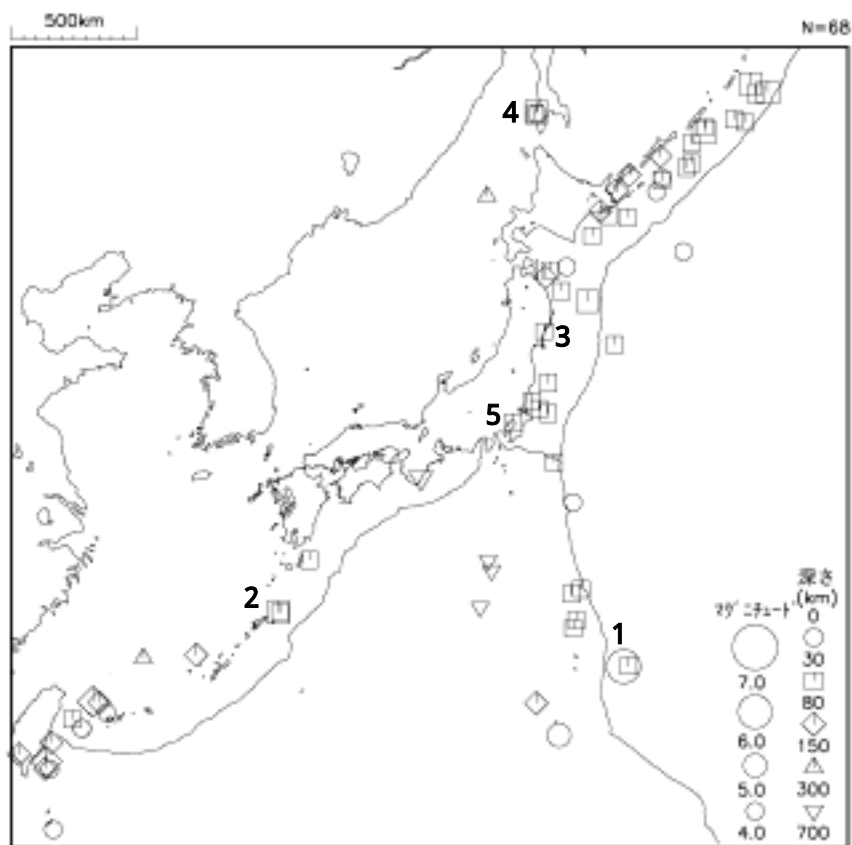


図2 2006年8月に発生したM4.0以上の地震  
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)



総数：10,026

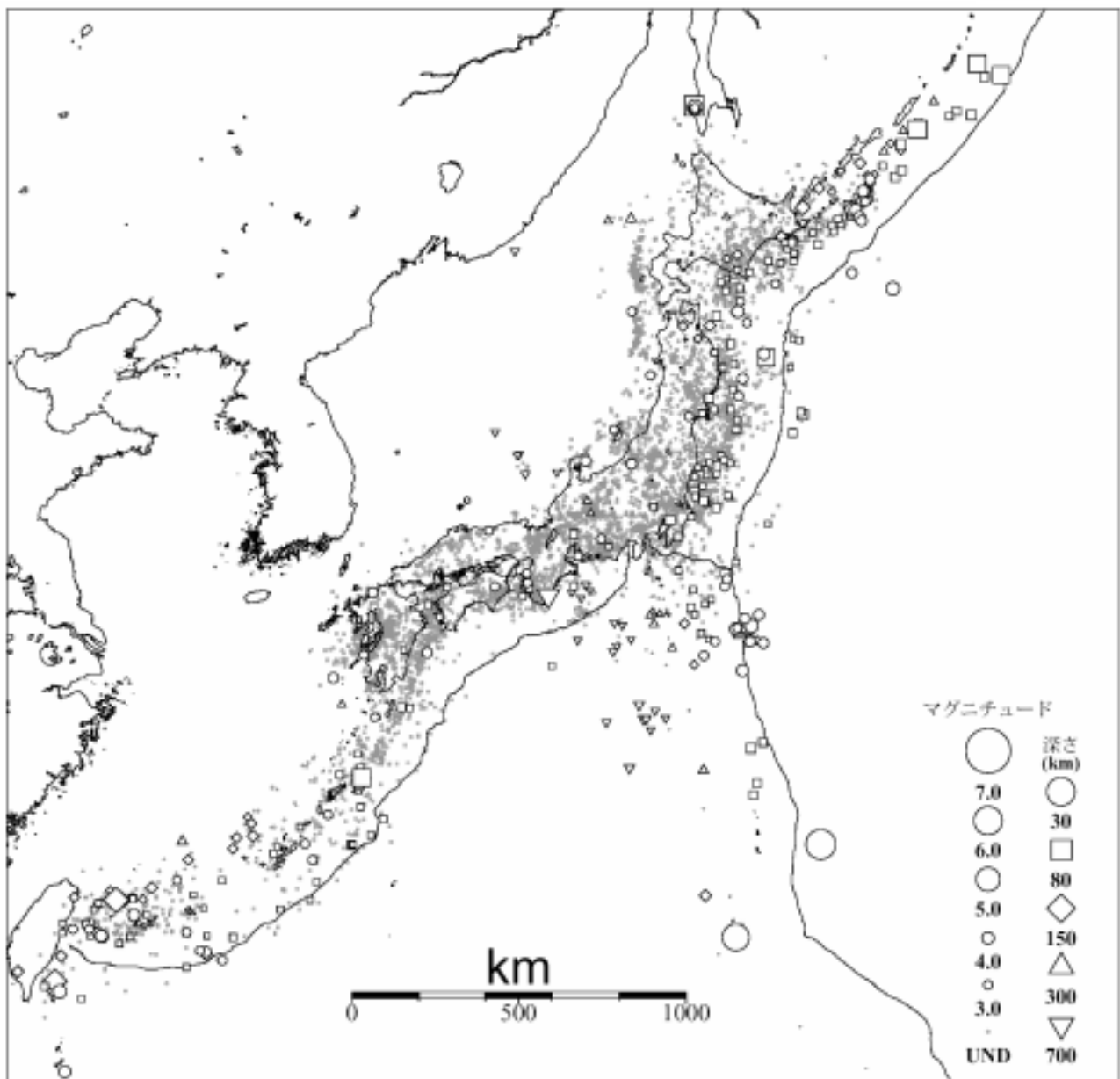


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2006年8月の地震の震央分布  
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

表 1 . 過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数  
<平成 17 年(2005 年) 8 月～平成 18 年(2006 年) 8 月>

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2006年 8 月	63	22	8	1						94	
2006年 7 月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海(震度 4 : 2 回、 震度 3 : 2 回、震度 2 : 5 回、 震度 1 : 15 回)
2006年 6 月	59	34	6	2	1					102	12日 大分県西部(震度 5 弱)
2006年 5 月	81	20	6	2						109	
2006年 4 月	89	47	22	3	1					162	30日 伊豆半島東方沖(震度 5 弱: 1 回、 震度 4 : 1 回、震度 3 : 4 回、 震度 2 : 6 回、震度 1 : 33 回)
2006年 3 月	66	31	11		1					109	27日 日向灘(震度 5 弱)
2006年 2 月	44	30	3	4						81	
2006年 1 月	61	20	4	1						86	
2005年 12 月	58	28	10	3						99	
2005年 11 月	47	23	8	2						80	
2005年 10 月	57	24	7	2	1					91	19日 茨城県沖(震度 5 弱)
2005年 9 月	59	27	5	1						92	
2005年 8 月	89	29	8	1		1	1			129	16日 宮城県沖(震度 6 弱 : 1 回、 震度 2 : 3 回、震度 1 : 11 回) 21日 新潟県中越地方(震度 5 強)
2006年計	545	228	72	16	3					864	(平成 18 年 1 月～平成 18 年 8 月)
過去 1 年計	766	330	102	24	4					1226	(平成 17 年 9 月～平成 18 年 8 月)

注) 「記事」欄の「\*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9 (1997) 年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市(神奈川県)、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県

平成 10 (1998) 年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県

10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、  
宮崎県、鹿児島県

平成 11 (1999) 年 7 月 21 日 東京都、長野県

平成 12 (2000) 年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市(愛知県)

3 月 28 日 滋賀県

7 月 18 日 富山県、香川県、大分県

平成 13 (2001) 年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市(神奈川県)

7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県

平成 14 (2002) 年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市(宮城県)

7 月 29 日 北海道、長崎県

平成 15 (2003) 年 3 月 10 日 沖縄県

平成 16 (2004) 年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

表 2 . 日本及びその周辺におけるマグニチュード (M)別の月別地震回数  
 <平成 17 年 (2005 年) 8 月 ~ 平成 18 年 (2006 年) 8 月>

	M3.0 ~ M3.9	M4.0 ~ M4.9	M5.0 ~ M5.9	M6.0 ~ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2006年 8 月	264	57	10	1		332	68	7日: 父島近海(M6.2)
2006年 7 月	235	40	3	1		279	44	28日: 台湾付近(M6.2)
2006年 6 月	270	60	10	1		341	71	12日: 大分県西部(M6.2)
2006年 5 月	242	52	4			298	56	
2006年 4 月	270	90	13	2		375	105	1日: 台湾付近(M6.4) 16日: 台湾付近(M6.0)
2006年 3 月	287	66	9	1		363	76	28日: 東海道沖(M6.0)
2006年 2 月	254	66	6	2		328	74	15日: マリアナ諸島近海(M6.6) 17日: 父島近海(M6.0)
2006年 1 月	265	52	5			322	57	
2005年12月	363	81	11	3		458	95	2日: 宮城県沖 (M6.6) 4日: 奄美大島近海 (M6.1) 奄美大島近海の地震の余震 (M3.0~3.9: 45回、M4.0~4.9: 7回、 M5.0~5.9: 3回) 17日: 宮城県沖 (M6.1) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 64回、M4.0~4.9: 4回)
2005年11月	534	94	8	1	1	638	104	15日: 三陸沖 (M7.2) 三陸沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 277回、M4.0~4.9: 27回) 22日: 種子島近海 (M6.0)
2005年10月	310	67	8	4		389	79	15日: 千島列島東方 (M6.4) 16日: 与那国島近海 (M6.5) 19日: 茨城県沖 (M6.3) 23日: 日本海中部 (M6.1)
2005年 9 月	294	65	6	2		367	73	6日: 台湾付近 (M6.0) 21日: 国後島付近 (M6.0)
2005年 8 月	451	92	10	2	1	556	105	16日: 宮城県沖 (M7.2) 宮城県沖の地震の余震 (M3.0~3.9: 38回、M4.0~4.9: 10回、 M5.0以上は本震の1回) 三陸沖の地震活動 (M3.0~3.9: 43回、M4.0~4.9: 13回、 M5.0~5.9: 2回、M6.0~6.9: 2回) 八丈島東方沖の地震活動 (M3.0~3.9: 94回、M4.0~4.9: 7回、 M5.0~5.9: 1回)
2006年計	2087	483	60	8		2638	551	(平成18年 1 月 ~ 平成18年 8 月)
過去 1 年計	3588	790	93	18	1	4490	902	(平成17年 9 月 ~ 平成18年 8 月)

注)日本及びその周辺: 原則、北緯20~49度、東経120~153度の範囲。「記事」欄には主にM6.0以上の地震について記載した。

## 世界の主な地震

8月に世界で発生したマグニチュード(M)6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

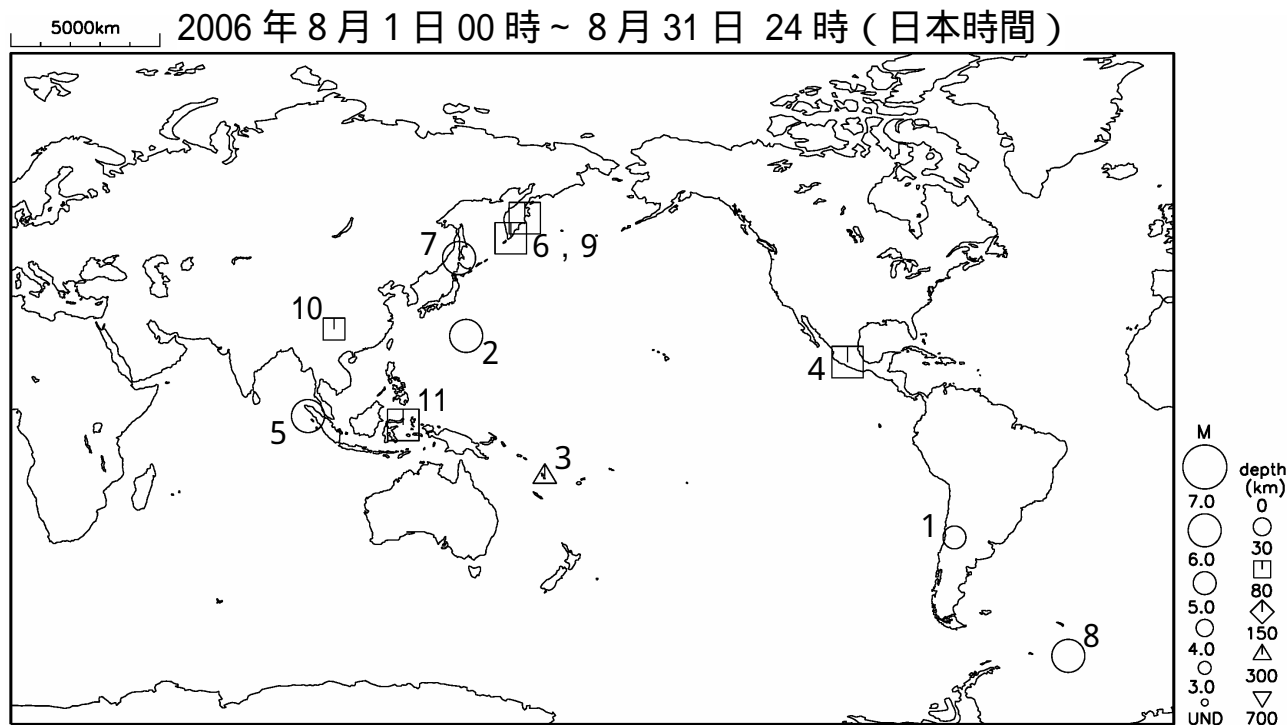


図1 2006年8月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布  
 <震源要素は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による>

\* : 数字は、表1の番号に対応する。

\*\* : マグニチュードはmb(実体波マグニチュード)、Ms(表面波マグニチュード)のいずれか大きい値を用いて表示している。

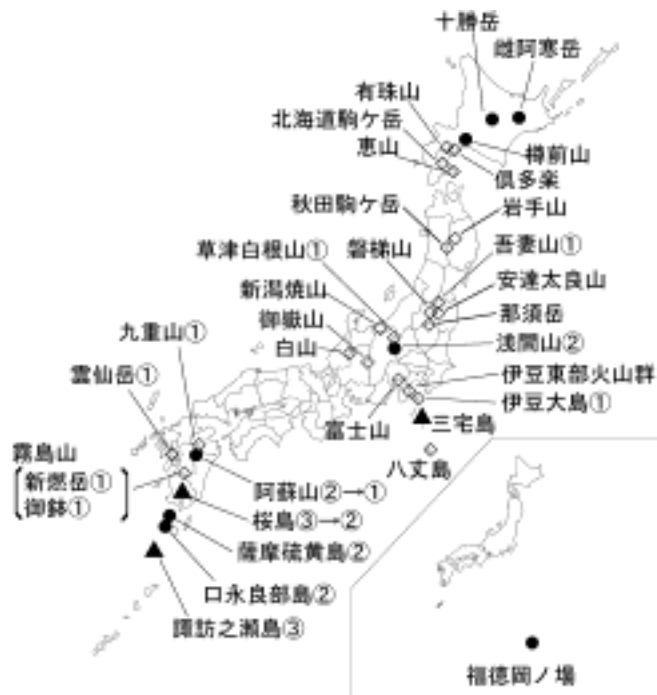
表1 2006年8月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月日時分	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	08月05日23時03分	S33° 07.6'W	68° 42.4'	22	5.9	5.2	5.5	アルゼンチン,メンドサ州	建物小被害
2	08月07日03時16分	N26° 38.5'E	144° 04.8'	24	6.1	(6.2)	5.8	父島近海	
3	08月08日07時18分	S15° 52.9'W	167° 46.1'	151	5.9		6.8	バヌアツ島付近	
4	08月11日23時30分	N18° 32.8'W	100° 57.6'	60	6.0		6.1	メキシコ,ゲレロ州	
5	08月12日05時54分	N 2° 24.8'E	96° 21.3'	22*	5.7	6.0	6.1	インドネシア,スマトラ北部	
6	08月17日20時11分	N55° 37.6'E	161° 43.1'	55*	6.1		5.7	カムチャツカ東部沿岸付近	
7	08月18日00時20分	N46° 43.5'E	141° 51.4'	48	6.0	(5.9)	5.5	サハリン近海	
8	08月20日12時41分	S61° 00.4'W	34° 22.9'	10*	6.3	6.8	7.0	スコシア海	
9	08月25日06時50分	N51° 09.5'E	157° 29.5'	43*	6.0		6.5	カムチャツカ東部沿岸付近	NWPTA発表
10	08月25日14時51分	N28° 01.9'E	104° 11.4'	42	5.1	4.6		中国,四川	死者1名、負傷者31名以上、建物被害
11	08月31日17時08分	S 0° 18.1'E	125° 05.1'	51	6.0		5.8	モルッカ海南部	

- ・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表のQUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による(2006年9月5日現在)。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード(Msの欄に括弧を付して記載)は気象庁、被害状況は総務省消防庁による。
- ・時分は震源時で日本時間[日本時間=協定世界時+9時間]である。
- ・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。
- ・震源の深さに「\*」が付いているのは、USGSが推定した深さである。
- ・NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報である(地震・火山月報(防災編)2005年5月号参照)。

## 平成 18 年 8 月の主な火山活動

## 記事を掲載した火山



**注 1** 本資料で示すレベルは、火山活動度レベルを導入した火山におけるレベルである。

**注 2 記号の意味**

- : 噴火した火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
- : その他記事を掲載した火山
- (丸付き数字) : 火山活動度レベル

**注 3** 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

## 【噴火した火山】

**三宅島** 【やや活発な状況】

23 日 04 時 28 分頃、ごく小規模な噴火が発生し、山麓で微量の降灰を確認した。噴火発生は 2 月 17 日のごく小規模な噴火以来である。

噴煙活動は引き続き活発で、二酸化硫黄の放出量は今期間に実施した観測では 1 日あたり 900～4,000 トンで、依然として多い状態が続いている。

**桜島** 【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】 18 日に[活発な火山活動（レベル 3）]から引き下げ南岳山頂火口から小規模な噴火が時々発生したが、昭和火口からの噴火はなかった。噴火活動は比較的静穏な状況になっていることから、18 日にレベルを 3（活発な火山活動）から 2（比較的静穏な噴火活動）に引き下げた。

**諏訪之瀬島** 【活発な状況（レベル 3）】

13 日、14 日および 28 日に爆発的噴火が発生したほか、小規模な噴火も時々発生した。

## 【活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山】

**十勝岳** 【やや活発な状況】

62-2 火口は依然として高温の状態が続いていると推定される。

**樽前山** 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群は依然として高温の状態が続いている。

**浅間山** 【やや活発な状況（レベル 2）】

噴煙活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

**福徳岡ノ場** 【やや活発な状況】

25 日に第三管区海上保安本部が上空から行った観測で、付近の海面に火山活動によるとみ

られる変色水が確認された。

**薩摩硫黄島** 【やや活発な状況（レベル2）】

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

**口永良部島** 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震のやや多い状態が続いている。

**【期間中に静穏な状況となった火山】**

**雌阿寒岳** 【静穏な状況】 25日に[やや活発な状況]から引き下げ

最近ではポンマチネシリ山頂の赤沼 06 火口群や北西斜面 06 噴気孔列の噴煙活動は静穏に経過している。地震活動も低調な状態が続いており、GPSによる地殻変動観測では5月下旬に増設した観測点を含めて、特段の変化は認められていないことから、雌阿寒岳の火山活動は静穏な状態になったと考えられる。

**阿蘇山** 【静穏な状況（レベル1）】 4日に[やや活発な状況（レベル2）]から引き下げ

中岳第一火口では、熱活動は低調な状態が続き、土砂噴出もみられないことから、火山活動は静穏になったと判断し、4日にレベルを2（やや活発な状況）から1（静穏な状況）に引き下げた。地震活動、噴煙活動は低調な状態で、地殻変動観測や、地磁気全磁力観測でも特段の変化はなかった。

**【静穏な状況であった火山】**

（北海道地方）

倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山

（東北地方）

岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山（レベル1）、安達太良山、磐梯山

（関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島）

那須岳、草津白根山（レベル1）、新潟焼山、御嶽山、白山、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島（レベル1）、八丈島

（九州地方）

九重山（レベル1）、雲仙岳（レベル1）、霧島山（新燃岳）（レベル1）、霧島山（御鉢）（レベル1）

## 過去1年間の火山活動の状況

火 山 名	平成17年				平成18年							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
雌阿寒岳	活動											
十勝岳	活動											
樽前山	活動											
吾妻山	レベル											
草津白根山	活動 レベル											
浅間山	活動 レベル											
伊豆大島	活動 レベル											
三宅島	活動											
福德岡ノ場	活動											
九重山	活動 レベル											
阿蘇山	活動 レベル											
雲仙岳	活動 レベル											
霧島山(新燃岳)	活動 レベル											
霧島山(御鉢)	活動 レベル											
桜島	活動 レベル											
薩摩硫黄島	活動 レベル											
口永良部島	活動 レベル											
諏訪之瀬島	活動 レベル											

### 活動状況(活動)

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

### 火山活動度レベル

- ：小規模な噴火が発生かその可能性  
(吾妻山、草津白根山、浅間山、雲仙岳では「小～中規模噴火が発生かその可能性」)  
(桜島では、「活発な火山活動」)
- ：やや活発な火山活動  
(桜島では、「比較的静穏な噴火活動」)
- ：静穏な火山活動

## 平成 18 年 8 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
雌阿寒岳	火山観測情報第 34 号	25 日 14:00	火山活動の評価をやや活発な状況から静穏な状況に引き下げた。
浅間山	火山観測情報第 31 号	4 日 16:00	7 月 28 日～4 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 32 号	11 日 16:00	4 日～11 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 33 号	18 日 16:00	11 日～18 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 34 号	25 日 16:00	18 日～25 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 213～243 号 (1 日 1 回発表)	1 日 16:30 2 日 16:40 3～21 日 16:30 22 日 16:40 23 日、24 日 16:55 25～31 日 16:30	最近の火山活動評価、前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。3 日、25 日、29 日に行なった火山ガスの観測結果。23 日及び 24 日の地震の増加、23 日早朝の噴火の状況及び降灰調査の結果。
阿蘇山	火山観測情報第 5 号	4 日 15:00	中岳第一火口の湯だまりの温度は低い状態が続き、火山活動は静穏な状況となったと判断し、火山活動度レベルを 2 から 1 に引き下げた。
桜島	火山観測情報第 28 号	4 日 15:45	活発な火山活動が継続。7 月 31 日～4 日 15 時の状況、防災上の注意事項。レベルは 3。
	火山観測情報第 29 号	11 日 15:30	活発な火山活動が継続。4 日～11 日 15 時の状況、防災上の注意事項。レベルは 3。
	火山観測情報第 30 号	18 日 15:30	噴火活動は小規模な噴火が時折発生する程度の比較的静穏な状態になったと判断し、火山活動度レベルを 3 から 2 に引き下げた。定期的な発表は本号をもって終了。レベルは 2。



